



Sun Control Station

管理者マニュアル

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 817-2893-10
2004 年 4 月, [Revision A](#)

本マニュアルについてのご意見は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>までお寄せください。

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布、および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、サンのロゴマーク、Java、JavaServer Pages、JSP、JumpStart、Netra、Solaris、Sun Cobalt、Sun Cobalt RaQ、Sun Cobalt CacheRaQ、Sun Cobalt Qube、Sun Fire、および Ultra は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

Netscape および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における、米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装する米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されるほか、米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に準拠します。

U.S. Government Rights - Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

はじめに vii

内容の紹介 vii

関連マニュアル viii

Sun のオンラインマニュアル viii

Sun のテクニカルサポート viii

コメントをお寄せください ix

1. 概要 1

Sun Control Station のサービス 3

一般情報 4

「Task Progress」ダイアログ 4

スケジュール 5

オンラインマニュアル 7

アイコン 8

オンラインマニュアル 8

ログアウト 8

システム管理者のパスワードのリセット 9

2. ステーションの設定 11

- 「Station Settings」メニュー 12
- アクティブ監視 12
 - 状態の警告 12
 - 状態を示す色 13
 - しきい値 13
 - ディスク使用率の検証とアラーム状態の解除 14
 - アクティブ監視の情報 15
- 設定 17
- バックアップ 18
 - バックアップ 18
 - バックアップの作成 19
 - バックアップのスケジュール設定の変更 20
 - バックアップのスケジュール設定の削除 20
 - 復元 21
 - ディザスタリカバリ 23
- 情報 23
 - Sun Control Station ソフトウェアの登録 24
- パスワード 25
 - パスワード選択の手引き 26

3. システム管理の機能 27

- 選択ウィンドウ 28
- 「Administration」メニュー 29
 - タスクおよびイベント 29
 - タスクをバックグラウンドで実行 30
 - スケジュール 30
- ホスト 31
 - 管理対象ホストの表示 31

ホストの追加	31
1つのホストを追加する	31
ホストのリストのインポート	34
ホストのリストの作成	35
ホストの変更	36
グループの作成	37
インストールされている制御モジュールのレポートの表示	38
ホストの削除	40
モジュール	41
「Control Modules」テーブル	41
制御モジュールの追加	42
制御モジュールの詳細の表示	44
選択したホストへのクライアント側コンポーネントのインストール	45
選択したホストからのクライアント側コンポーネントの削除	46
インストールの再試行	47
制御モジュールの削除	48
グループ	49
「Groups」テーブル	49
グループの追加	50
グループの変更	51
グループの詳細の表示	52
グループへのホストの追加	52
グループからのホストの削除	53
グループの削除	53
タスク	54
「Tasks」テーブル	54
イベントのテーブル	56
スケジュール	58

クリーンアップ	59
タスクのスケジュール設定の詳細の表示	59
タスクのスケジュール設定の変更	60
タスクのスケジュール設定の削除	60

A. ライセンス 61

BSD の著作権	61
GNU ジェネラルパブリックライセンス	62
SSL ライセンス	67
Intel BSD および特許ライセンス	68
Apache ライセンス (Struts および Tomcat)	70
Java™ 2 Platform, Standard Edition (J2SE™) ライセンス	71

はじめに

このユーザーマニュアルでは、Sun Control Station の「Station Settings」メニューおよび「Administration」メニューから使用できる機能について説明します。このマニュアルは、Sun Control Station ソフトウェアのシステム管理者が対象です。

個々の制御モジュールについては、各制御モジュールのユーザーマニュアルを参照してください。viii ページの「関連マニュアル」を参照してください。

内容の紹介

このユーザーマニュアルは、次の章と付録から構成されます。

- 第 1 章では、Sun Control Station ソフトウェアの概要と一般情報を示します。
- 第 2 章では、ユーザーインターフェース (UI) の左側にある「Station Settings」メニューから使用できる機能について説明します。
- 第 3 章では、UI の左側にある「Administration」メニューから使用できる機能について説明します。
- 付録 A には、この製品で使用されているサン以外の技術およびソフトウェアのライセンスが含まれます。

関連マニュアル

Sun Control Station のソフトウェアインストールガイド、および個々の制御モジュールに関連するマニュアルを次に示します。

説明	タイトル	Part No.
ソフトウェアのインストール	ソフトウェア インストール	817-5868-10
制御モジュール	AllStart モジュール	817-5898-10
制御モジュール	Health Monitoring モジュール	817-5863-10
制御モジュール	Inventory モジュール	817-5878-10
制御モジュール	Lights Out Management モジュール	817-3609-10
制御モジュール	Performance モジュール	817-5883-10
制御モジュール	Software Management モジュール	807-5903-10
リリースノート	リリースノート	817-5888-10

Sun のオンラインマニュアル

サン の各種マニュアルは下記 URL より参照できます。

<http://www.sun.com/documentation>

Sun のテクニカルサポート

この製品に関する技術的なご質問で、このマニュアルに記述されていない事項については、次のサイトからお問い合わせください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

コメントをお寄せください

弊社では、マニュアルの改善に努力しており、お客様からのコメントおよびご忠告をお受けしております。コメントは下記宛に電子メールでお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

電子メールの表題にはマニュアルのタイトルと Part No. を記載してください。

Sun Control Station - 管理者マニュアル、Part No. 817-2893-10

第1章

概要

Sun™ Control Station は、システム管理者がホストを管理するためのソフトウェアパッケージです。たとえば、ソフトウェアの更新の追跡や適用、新サービスの展開、ホストの健全性監視やパフォーマンスの監視が可能です。Sun Control Station は、単なる「システム」の管理デバイスではなく、初期設定から、耐用年数に達したときの再展開まで、ホストの「ライフサイクル」の管理が可能なプラットフォームです。Sun Control Station を導入しても、サン以外の、または社内で開発したソフトウェアは引き続き使用できます。

Sun Control Station は、制御モジュールを実行するエンジンであるコアフレームワーク、および組み込みの制御モジュールの2つの部分から構成されます。制御モジュールは、Sun Microsystems, Inc.、サン以外のベンダー、または社内の開発チームから入手します。Sun Control Station は、パフォーマンス監視 (Performance Monitoring)、目録処理 (Inventory)、ソフトウェア管理 (Software Management)、健全性監視 (Health Monitoring)、および電源管理 (LOM, Lights Out Management) の5つのモジュールがインストールされた状態で出荷されます。

Sun Control Station を使い、ソフトウェアのペイロードの配布を完全に制御し、下位のユーザーおよび一般ユーザーに、カスタマイズされたサービスを提供できます。サービスプロバイダは、独自のペイロード、データ、またはソフトウェアの監視サービスを提供できます。Sun BlueLinQ 技術を利用すると、システム管理者の指定通りに、すべての使用可能なソフトウェアの更新やパッチにアクセスし、管理対象のホストに配布できます。カスタムで作成したソフトウェアや、サン以外のソフトウェアも配布できます。また、ソフトウェアパッケージを発行し、BlueLinQ に対応したクライアント (ほかの Sun Control Station を含む) がパッケージを表示し、ダウンロードできるようにすることもできます。

Sun Control Station は、次の Sun サーバーおよび Sun Cobalt™ サーバーアプライアンスの管理に使用できます。このリストは、このマニュアル発行時現在のものです。

注 - Sun Cobalt サーバーアプライアンス以外の管理対象ホストについては、Control Station のエージェントをホストにインストールし、使用可能にする必要がある場合があります。

エージェントをインストールし、使用可能にする方法については、『ソフトウェアインストール』(PDF ファイル) を参照してください。

- Sun LX50 サーバー、全言語
- Sun Fire™ V60x サーバーおよび Sun Fire V65x サーバー
- Netra™ T1 サーバ (Solaris™ 8 および Solaris 9)
- Netra X1 サーバ (Solaris 8 および Solaris 9)
- Netra T1120 ~ 1125 サーバ (Solaris 8 および Solaris 9)
- Ultra™ 1 サーバ (Solaris 8 および Solaris 9)
- Ultra 2 サーバ (Solaris 8 および Solaris 9)
- Ultra 5 ~ 10 サーバ (Solaris 8 および Solaris 9)
- Ultra 80 サーバ (Solaris 8 および Solaris 9)
- 次のオペレーティングシステムを使用する x86 ベースのサーバー
 - Red Hat 7.2
 - Red Hat 7.3
 - Red Hat 8.0
 - Red Hat 9.0
 - Red Hat Enterprise Linux AS 2.1
 - Red Hat Enterprise Linux ES 2.1
 - Red Hat Enterprise Linux WS 2.1
- Sun Cobalt RaQ 550 サーバーアプライアンス、英語版および日本語版
- Sun Cobalt RaQ XTR サーバーアプライアンス、英語版および日本語版
- Sun Cobalt CacheRaQ™ 4 サーバーアプライアンス、英語版
- Sun Cobalt Qube 3 アプライアンス、全バージョン (英語、日本語、多言語)

Sun Control Station のサービス

Sun Control Station を使用して実行できることの例を次に示します。

- **目録処理管理**- 管理対象ホスト内に設置されたハードウェアコンポーネントに関する詳細情報を確認できます。
- **ソフトウェア管理**- システム管理者は、ソフトウェアのパッチと更新のバージョン追跡機能を使用して、システムを最新の状態に保つことができます。カスタムのソフトウェアまたはデータを展開することもできます。
- **ローカルソフトウェアリポジトリ**- ソフトウェア管理とともに、ローカルソフトウェアリポジトリを使用してソフトウェアパッケージファイルを発行し、各ホストのシステム管理者または一般ユーザーがパッケージファイルを必要に応じてインストールできるようにできます。発行されたパッケージファイルを表示し、ほかの BlueLinQ 対応サーバーと共有するように Sun Control Station を設定できます。
- **OS のインストール**- AllStart 制御モジュールには、Kickstart (Red Hat の機能) と AutoYaST (SuSE の機能) 技術が統合されており、Linux ベースのシステムを、簡単に、同じ方法でインストールおよびカスタマイズできます。この制御モジュールは、ソフトウェアのペイロードの作成、クライアントプロファイルの定義、およびシステムのインストールと更新の監視と検証に使用する共通のユーザーインターフェースです。
- **健全性監視およびパフォーマンス監視**- これらの制御モジュールは、システム警告、およびホストの基本動作の一覧表示を示し、障害の潜在的な原因を特定できます。
- **電源管理 (LOM、Lights Out Management)**- LOM 制御モジュールを使用すると、IPMI (Intelligent Platform Management Interface) バージョン 1.5 に準拠するホストで、特定の管理機能をリモートで実行できます。たとえば、ホストの電源を投入または切断したり、現在のシステムイベントログ (SEL) の情報を表示したりできます。

これらのサービスは、エクストラネット環境やイントラネット環境で、またはインターネットを経由して使用できます。

一般情報

「Task Progress」ダイアログ

Sun Control Station のバックアップファイルの作成、制御モジュールの追加などのタスクを起動すると、ユーザーインタフェース (UI) に「Task Progress」ダイアログが表示されます。このダイアログには、タスクの現在の状態を示す「Status」フィールドと進行状況バーが表示されます。進行状況バーが 100% になったら、タスクは完了です。

図 1-1 に例を示します。

現在のタスクの実行中に UI で別のタスクを実行する場合は、「Task Progress」ダイアログをバックグラウンドに移動できます。バックグラウンドに移動するには、進行状況バーの下にある「Run Task In Background」ボタンをクリックします。

「Task Progress」ダイアログに戻るには、左側の「Administration」>「Tasks」を選択します。タスクのテーブルが表示されます。タスクがまだ実行中の場合は、「Duration」列に状態メッセージが表示されます。この列の進行状況バーのアイコンをクリックすると、このタスクの「Task Progress」ダイアログが再表示されます。

タスクが完了し、進行状況バーが 100% になったら、「Task Progress」ダイアログの下に「Done」と「View Events」の 2 つのボタンが表示されます。

- 完了したタスクに関連するイベントのリストを表示するには、「View Events」をクリックします。「Events For <タスク>」テーブルが表示されます。右上にある上矢印のアイコンをクリックすると、「Tasks」テーブルが表示されます。
- 前の画面に戻るには、「Done」をクリックします。



図 1-1 「Task Progress」ダイアログの例

スケジュール

スケジュール機能（「スケジューラ」ともいう）を使用すると、1つまたは複数のタスクをあとで実行するスケジュールを設定できます。

Sun Control Station のタスクの多くはスケジュールを設定できます。スケジュールを設定できる場合、「Schedule」というボタンが、最後の手順のテーブルまたは選択ウィンドウに表示されます。

スケジューラの操作を次に示します。これはどのタスクでも同じです。

1. タスクについて必要なフィールドに値を指定します。
2. 「Schedule」をクリックします。

「Schedule Settings For <タスク>」が表示されます (図 1-2 を参照)。

3. スケジュールの設定を行います。

タスクのスケジュールには次の設定があります。

- 「Run Date And Time」 - タスクを実行する日付を MM/DD/YYYY hh:mm 形式で入力します。

このフィールドの横にあるカレンダーのアイコンをクリックすることもできます。アイコンをクリックすると、別のブラウザウィンドウが開きます。タスクの日時を選択します。キーボードの Enter キーまたは Return キーを押します。日時がフィールドに表示されます。

- 「Email Address」 (省略可能) - タスクの実行時に通知を送信する電子メールアドレスを入力します。
 - 「Notify When Starting」 - タスクの開始時に通知する場合、このチェックボックスを有効にします。
 - 「Notify When Finished」 - タスクの完了時に通知する場合、このチェックボックスを有効にします。
4. 一部の機能については、テーブルの上にあるプルダウンメニューを使用してタスクの頻度を設定できます (毎時、毎日など)。

5. 「Cancel」または「Save」をクリックします。

「Cancel」をクリックした場合、スケジュールされたタスクは保存されません。

「Scheduled Tasks」テーブルが表示されますが、キャンセルされたタスクは表示されません。

「Save」をクリックした場合、スケジュール設定されたタスクが、スケジュールされているタスクの一覧に追加されます。「Scheduled Tasks」テーブルに、新規タスクが表示されます。

6. このテーブルで、スケジュールが設定されているタスクの詳細を表示したり、タスクを変更または削除したりできます。

スケジュールされたタスクの詳細を表示するには、虫めがねのアイコンをクリックします。

スケジュールされたタスクを変更するには、鉛筆のアイコンをクリックします。

スケジュールされたタスクを削除するには、削除のアイコンをクリックします。

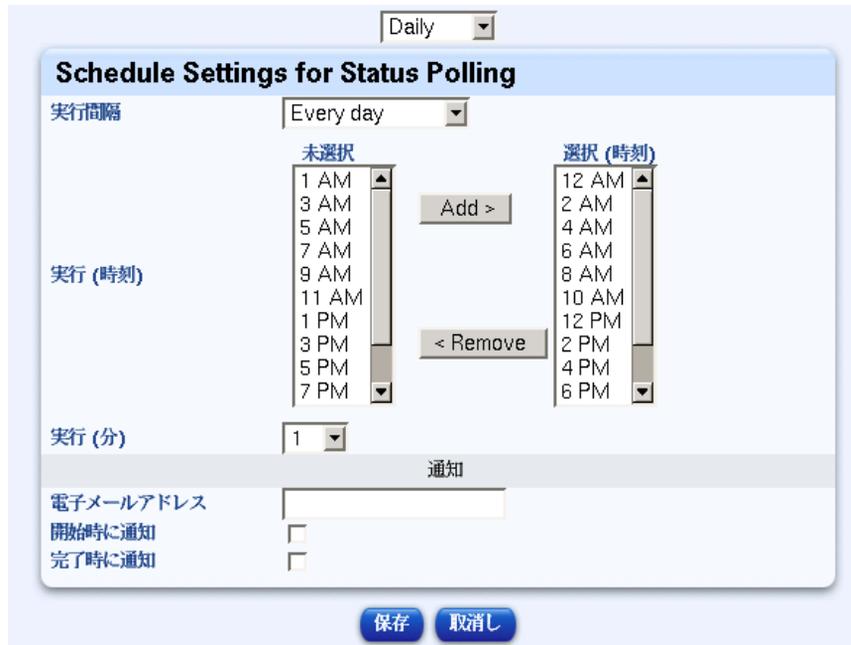


図 1-2 スケジューラのテーブルの例

オンラインマニュアル

ユーザーマニュアルの PDF ファイルを表示するには、右上にあるオンラインマニュアルのアイコンをクリックします。別のブラウザウィンドウが開き、使用可能な PDF ファイルのリストが表示されます。PDF ファイルのリンクをクリックすると、PDF ファイルをブラウザウィンドウで開くか、個人のコンピュータに保存できます。

Sun Control Station にサン以外のソフトウェアをインストールした場合は、そのソフトウェアに関連するマニュアルも利用できます。

アイコン

UI の右上には、次の 2 つのアイコンがあります。

- オンラインマニュアル
- ログアウト

オンラインマニュアル



UI から、PDF 形式のユーザーマニュアルにアクセスできます。

ログアウト



ログアウトのアイコンをクリックすると、システムからログアウトできます。

システム管理者のパスワードのリセット

注 - この手順では、システム管理者が Sun Control Station の UI にログインするときのパスワードだけをリセットします。

システム管理者が UI にログインするときのパスワードを手動でリセットするには、次の手順に従います。

1. `ssh` で Sun Control Station にログインします。

2. `root` ではない場合は、`root` になります。

```
su -
```

3. ユーザー名「admin」とパスワード「admin」に暗号化したパスワードを作成します。

```
/usr/bin/htpasswd -n -s -b admin admin
```

```
admin:{SHA}0DPiKuNIrrVmD8IUCuw1hQxNqZc=
```

4. `admin:{SHA}` の後の文字列をコピーします。

```
0DPiKuNIrrVmD8IUCuw1hQxNqZc=
```

5. この文字列を、次のファイルのユーザータグのパスワード属性にペーストします。

```
/var/tomcat4/webapps/sdui/WEB-INF/database.xml
```

6. `tomcat` を終了し、再起動します。

```
dtomcat4 stop
```

```
dtomcat4 start
```

ユーザー名「admin」およびパスワード「admin」で Control Station の UI にログインできるようになります。

システム管理者のパスワードを UI から変更する方法については、25 ページの「パスワード」を参照してください。

第2章

ステーションの設定

この章では、Sun™ Control Station ソフトウェアを実行しているサーバーのステーションの設定について説明します。ユーザー名「admin」のシステム管理者が、Control Station を完全に制御する権限を持っています。システム管理者は、次の操作が可能です。

- アクティブ監視の情報の表示
- 保守機能の実行 (バックアップと復元)
- システム情報のページの表示
- Sun Control Station ソフトウェアの登録
- システム管理者のパスワードの変更

注 - この章に示すほとんどの手順では、最初の手順で左側のメニューバーにある「Station Settings」タブをクリックし、2 番目の手順でサブメニューの項目をクリックします。

各手順の数を減らすため、メニューコマンドをまとめて説明しています。各項目の間に大なり括弧を入れています。

たとえば、「Station Settings」>「Backups」は、左側のメニューバーにある「Station Settings」タブをクリックしてから、サブメニューの「Backups」項目をクリックすることを意味します。

「Station Settings」メニュー

次のリストは、「Station Settings」画面の左側にある全メニュー項目を示します。これらは、システム管理者がこの画面から管理できる機能やサービスです。それぞれについてこの章で説明します。

- 「Active Monitoring」 (12 ページの「アクティブ監視」を参照)
- 「Settings」 (17 ページの「設定」を参照)
- 「Backups」 (18 ページの「バックアップ」を参照)
- 「Information」 (23 ページの「情報」を参照)
- 「Password」 (25 ページの「パスワード」を参照)

アクティブ監視

状態の警告

アクティブ監視は、10 分ごとにシステムで実行され、サービスやシステムコンポーネントの状態を更新する cron ジョブです。

アクティブ監視で監視されているサービスまたはシステムコンポーネントが黄色または赤に変化した場合、左側のメニューバーに「Check Alerts」という状態メッセージが表示され、その下にアイコンが表示されます。

このアイコンをクリックすると、アクティブ監視の状態テーブルが表示されます。

「Settings」で、アクティブ監視の警告を送信する電子メールアドレスが入力されている場合は、そのアドレスに電子メールが送信されます。詳細は、17 ページの「設定」を参照してください。

状態を示す色

各サービスまたはハードウェアコンポーネントの状態は、各項目の横に、色付きの丸とアイコンで表示されます。灰色の丸に点線、緑色の丸にチェックマーク、黄色の丸に感嘆符、または赤い丸に X マークがあるアイコンがあります。各色には、次の意味があります。



灰色の丸に点線 - 情報がなく、サービスまたは監視機能がホストで使用可能になっていない



緑色の丸にチェックマーク - サービスまたはコンポーネントが正常に機能している



黄色の丸に感嘆符 - ホストで中程度の使用負荷があるか、コンポーネントが回復処理中である



赤い丸に X マーク - ホストで重度の使用負荷、または障害がある

しきい値

アクティブ監視のアラームのしきい値は、次のとおりです。

- 「CPU Yellow Alarm」 - 黄色で示されるアラームを生成するしきい値を入力します。この値は、CPU の平均負荷を表します。デフォルト値は 3 です。
- 「CPU Red Alarm」 - 赤色で示されるアラームを生成するしきい値を入力します。この値は、CPU の平均負荷を表します。デフォルト値は 6 です。
- 「Disk Yellow Alarm」 - 黄色で示されるアラームを生成するしきい値を入力します。この値は、ハードディスクドライブの使用比率を表します。デフォルト値は 80 です。

たとえば 80 の値は、ハードディスクドライブの容量の 80% が使用されているときに、黄色アイコンで示されるアラームが生成されることを意味します。

- 「Disk Red Alarm」 - 赤色で示されるアラームを生成するしきい値を入力します。この値は、ハードディスクドライブの使用比率を表します。デフォルト値は 90 です。

たとえば 90 の値は、ハードディスクドライブの容量の 90% が使用されているときに、赤色アイコンで示されるアラームが生成されることを意味します。

- 「Memory Yellow Alarm」 - 黄色で示されるアラームを生成するしきい値を入力します。この値は、メモリーの使用比率を表します。デフォルト値は 50 です。
たとえば 50 の値は、メモリーの 50% が使用されているときに、黄色アイコンで示されるアラームが生成されることを意味します。
- 「Memory Red Alarm」 - 赤色で示されるアラームを生成するしきい値を入力します。この値は、メモリーの使用比率を表します。デフォルト値は 75 です。
たとえば 75 の値は、メモリーの 75% が使用されているときに、赤色アイコンで示されるアラームが生成されることを意味します。

ディスク使用率の検証とアラーム状態の解除

BlueLinQ サーバーから使用可能なパッケージファイルを自動的にダウンロードするよう
に選択した場合、ハードディスクドライブの使用比率に対する黄色または赤のア
ラームが発生する可能性があります。詳細は、『Software Management モジュール』
(PDF ファイル) の「BlueLinQ Server Settings」を参照してください。

Control Station にログインし、ディスクの使用比率を検証できます。アクティブ監視
の cron ジョブでは、/ (ルート)、/var、および /home の各ディレクトリだけが検証
されます。

UI からアラーム状態を解除するには、パーティション内のファイルを整理し、アク
ティブ監視の情報を更新します。

1. ssh で Sun Control Station サーバーにログインします。
2. root ユーザーになります。
su -
3. 次のコマンドを実行して / (ルート)、/var、および /home の各パーティションを確
認します。

```
df / /var /home
```

各パーティションについて次の情報が表示されます。

- Filesystem
- 1k-blocks
- Used
- Available
- Use %

- Mounted on

「Use %」の値がしきい値よりも高い場合、アラームが発生します。

4. 各パーティション内のファイルを整理します。
5. Control Station の UI で、「Station Settings」>「Active Monitoring」を選択します。
アクティブ監視の状態テーブルが表示されます。
6. テーブルの上にある「Update Now」をクリックし、システムとサービスの状態情報の更新を開始します。
状態は正常 (緑色の円にチェックマーク) に戻ります。

アクティブ監視の情報

Sun Control Station ソフトウェアを実行しているサーバーのアクティブ監視の情報を表示するには、次の手順に従います。

1. 「Station Settings」>「Active Monitoring」を選択します。
アクティブ監視の状態テーブルが表示されます (図 2-1 を参照)。
 - 「Base System Components」テーブルには、CPU、ディスク、およびメモリーに関する情報が表示されます。
 - 「Base Services」テーブルには、サーバーで実行されている各サービスに関する情報が表示されます。サーバーには、FTP サーバー、telnet サーバー、電子メールサーバー、DNS サーバーなどがあります。これらの項目は、表示しているサーバーによって異なります。
 - 「Other System Services」テーブルには、システム管理者がサーバーに追加した、サン以外の、またはカスタマイズしたサービスに関する情報が表示されます。
2. テーブルの上にある「Update Now」をクリックすると、システムとサービスの状態情報の更新が開始されます。
この処理はバックグラウンドで実行され、数分間を要する場合があります。

ただちに更新

アクティブな監視 - 基本システムコンポーネント

状態	サービス	ベンダー	日付 / 時刻
	CPU	Sun	木, 11 3 2004 09:34:04
	Disk	Sun	木, 11 3 2004 09:34:04
	Memory	Sun	木, 11 3 2004 09:34:04

基本サービス

状態	サービス	ベンダー	日付 / 時刻
	Domain Name Server	Sun	木, 11 3 2004 09:34:04
	Email Server	Sun	木, 11 3 2004 09:34:04
	FTP Server	Sun	木, 11 3 2004 09:34:04
	MySQL Server	Sun	木, 11 3 2004 09:34:04
	OpenSSH Server	Sun	木, 11 3 2004 09:34:04
	Telnet Server	Sun	木, 11 3 2004 09:34:04
	Tomcat Server	Sun	木, 11 3 2004 09:34:04
	Web Server	Sun	木, 11 3 2004 09:34:04

その他のシステムサービス

状態	サービス	ベンダー	日付 / 時刻
	RAID	CNP	木, 11 3 2004 09:34:04

図 2-1 アクティブ監視の状態テーブル

設定

HTTP または FTP のプロキシサーバー、およびタスクやイベントを保管しておく日数を設定できます。また、アクティブ監視の警告を送信する電子メールアドレスを入力することもできます。

これらの設定は省略可能です。

設定を行うには、次の手順に従います。

1. 「Station Settings」 > 「Settings」 を選択します。
「Settings」 テーブルが表示されます (図 2-2 を参照)。
2. 次の設定を行います。
 - 「HTTP proxy server」 - IP アドレスまたは完全ドメイン名を入力します。
 - 「FTP proxy server」 - IP アドレスまたは完全ドメイン名を入力します。
 - 「Days to keep tasks and events」 - デフォルト値は 5 日です。
 - 「Active Monitor notification email」 - xxxx@yyyy.zzz の形式で電子メールアドレスを入力します。デフォルト値は root@localhost です。
3. 「Save」 をクリックします。

設定	
HTTP プロキシサーバー	<input type="text"/>
FTP プロキシサーバー	<input type="text"/>
タスクとイベントの保存日数	2
アクティブな監視の通知電子メール	root@localhost

保存 取消し

図 2-2 「Settings」 テーブル

バックアップ

「Backup Administration」テーブルでは、Sun Control Station のバックアップと復元を行うことができます。

バックアップ

Sun Control Station では、バックアップのスケジュールを設定するか、手動でバックアップを行うことができます。

Control Station は、Windows ファイル共有 (SMB) またはネットワークファイル共有 (NFS) を使用してバックアップできます。バックアップファイルをローカルサーバーに保存することもできますが、これはお勧めしません。ハードディスクドライブに障害が発生した場合、サーバーの残りのデータを含め、バックアップファイルが失われます。

バックアップファイルの名前は次の形式になります。

```
bk_YYYYMMDD_hhmm.scs
```

ここで YYYYMMDD_hhmm は、年、月、日、時、分を表します。

たとえば、ファイル名 bk_20030426_1745.scs は、バックアップファイルが 2003 年 4 月 26 日の 17:45 に作成されたことを示します。

注 - バックアップのスケジュールを設定する場合は、ファイルの保存先が使用可能で、バックアップアーカイブ用に十分なディスク容量があることを確認します。この確認を行わなかった場合、アーカイブが長さゼロ、または不完全になる可能性があります。

バックアップの作成

Sun Control Station のデータのバックアップを作成するには、次の手順に従います。

1. 「Station Settings」 > 「Backups」 を選択します。

「Backup Administration」 テーブルが表示されます (図 2-3 を参照)。

2. 「Backup File Path」 フィールドにパスを入力します。

デフォルトのパスは、ローカルサーバーの `/scs/backups` です。

ローカルサーバーではなく、別のサーバーにバックアップすることをお勧めします。

バックアップファイルを書き込む外部ファイルシステムをマウントできます (Windows ファイル共有 (SMB) サーバーまたはネットワークファイル共有 (NFS) サーバー)。

注 - このパスへの書き込み権が必要です。

3. 「Create Backup Now」 をクリックします。

「Task Progress」 ダイアログが表示されます。

注 - バックアップファイルの作成スケジュールを設定することもできます。詳細は、5 ページの「スケジュール」を参照してください。



図 2-3 「Backup Administration」 テーブル

バックアップのスケジュール設定の変更

バックアップタスクのスケジュールの設定を変更するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Schedule」 を選択します。
「Schedule Administration」 テーブルが表示されます。
2. 変更するバックアップタスクの横にある鉛筆のアイコンをクリックします。
「Scheduled Settings For Create Backup」 テーブルに、バックアップジョブに関する詳細情報が表示されます。
3. 設定を変更します。
4. 変更内容を保存せずに戻るには、「Cancel」 をクリックします。変更内容を保存するには、「Save」 をクリックします。
「Scheduled Settings For Create Backup」 テーブルが表示されます。

バックアップのスケジュール設定の削除

バックアップタスクのスケジュールの設定を削除するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Schedule」 を選択します。
「Schedule Administration」 テーブルが表示されます。
2. 削除するバックアップタスクの横にある削除のアイコンをクリックします。
削除を確認する確認ダイアログが表示されます。
3. 「Remove Schedule」 をクリックします。
バックアップタスクが削除された状態で「Schedule Administration」 テーブルが表示されます。

復元

注 - バックアップファイルが最新のものであることを確認してください。バックアップファイルの作成後にサーバーに対して変更を加えた場合、サーバーは正しく復元されません。

バックアップタスクの実行時に、「Backup Administration」テーブルの「Backup File Path」フィールドで指定した場所に新しいファイルが作成されます。詳細は、19ページの「バックアップの作成」を参照してください。ファイル名は、バックアップが開始した日時で、年、月、日、時、分の形式になっています。たとえば、ファイル名 bk_20030426_1745.scs は、バックアップファイルが 2003 年 4 月 26 日の 17:45 に作成されたことを示します。

Sun Control Station を復元するには、まず復元用のバックアップファイルを用意します。次に Control Station UI からログアウトし、コマンド行スクリプトを実行してサーバーのデータを復元します。

注 - スクリプトを実行する前に、あらかじめ「Prepare Restore」の手順を実行します。

1. 「Station Settings」 > 「Backups」 を選択します。
「Backup Administration」 テーブルが表示されます。
2. テーブルの上にある「Restore From Backup...」 をクリックします。
「Restore Administration」 テーブルが表示されます (図 2-4 を参照)。
3. ラジオボタンをクリックして、バックアップファイルの場所を指定する方法を指定します。
 - 「Upload」 - 「Choose File」 をクリックしてバックアップファイルを探します。
 - 「/scs/backups」 - Sun Control Station のこのディレクトリにバックアップファイルがある場合は、プルダウンメニューを使用してバックアップファイルを選択できます。
4. 復元を取り消すには、テーブルの下にある「Cancel」 をクリックします。

5. このバックアップファイルを復元するには、テーブルの下にある「Prepare Restore」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。復元が完了すると、復元スクリプトが実行可能であることを示すダイアログボックスが表示されます。

注 - この時点では、データの復元は開始されていません。復元は、復元スクリプトを実行することで開始します。

6. Control Station UI からログアウトします。

7. ssh でサーバーにログインします。

8. root ユーザーになります。

```
su root
```

9. ディレクトリ /root から、restore.sh スクリプトを実行します。

```
/root/restore.sh
```

端末のウィンドウにいくつかのメッセージが表示されます。「All Done」が最後のメッセージになります。

10. Control Station UI に再度ログインし、復元が正常に完了したことを確認します。



図 2-4 「Restore Administration」 テーブル

ディザスタリカバリ

障害の発生後に Sun Control Station を既知の状態に戻すには、次の手順に従います。

1. オペレーティングシステムの CD-ROM を使用して、サーバーを工場出荷時の状態に戻します。
2. Sun Control Station ソフトウェアをサーバーに再インストールします。
バックアップファイルを使用して、Control Station の情報をサーバーに復元できる状態になります。
3. Control Station の UI で、「Station Settings」 > 「Backups」を選択します。
「Backup Administration」テーブルが表示されます。
4. 21 ページの「復元」の説明に従って、復元プロセスを実行します。

情報

Sun Control Station に関する情報を表示するには、「Station Settings」 > 「Information」を選択します。「System Information」テーブルに、次の情報が表示されます。

- 製品名
- 製品のビルド番号
- 製品のシリアル番号

「System Information」テーブルの下には、「Register Now」および「Sun Microsystems, Inc. Web Site」の 2 つのボタンがあります。

- 「Register Now」をクリックします。すると、Sun Control Station ソフトウェアを登録できます。
- 「Sun Microsystems, Inc. Web Site」をクリックすると、次の Web サイトが表示されます。

<http://www.sun.com/hardware/serverappliances/>

Sun Control Station ソフトウェアの登録

Sun Control Station ソフトウェアを登録するには、次の手順に従います。

1. 「Station Settings」 > 「Information」 を選択します。
「System Information」 テーブルが表示されます。
2. テーブルの下にある「Register Now」 をクリックします。
「Registration Information」 テーブルが表示されます (図 2-5 を参照)。
3. 次の情報を入力します。
 - 名
 - 姓
 - 組織
 - 国
 - 職種
 - 電話番号
 - 電子メールアドレス
4. 「Send」 をクリックします。
「System Information」 テーブルが再表示されます。



The image shows a web form titled "登録情報" (Registration Information). It contains seven input fields for the following fields: 名 (Name), 姓 (Surname), 組織 (Organization), 国 (Country), 職務権限 (Job Title/Authority), 電話番号 (Phone Number), and 電子メールアドレス (Email Address). At the bottom of the form, there are two buttons: "送信" (Send) and "取消し" (Cancel).

登録情報	
名	<input type="text"/>
姓	<input type="text"/>
組織	<input type="text"/>
国	<input type="text"/>
職務権限	<input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/>
電子メールアドレス	<input type="text"/>

図 2-5 「Registration Information」 テーブル

パスワード

システム管理者のパスワードを変更するには、次の手順に従います。

1. 「Station Settings」 > 「Password」 を選択します。

「Administrator Password」 テーブルが表示されます (図 2-6 を参照)。

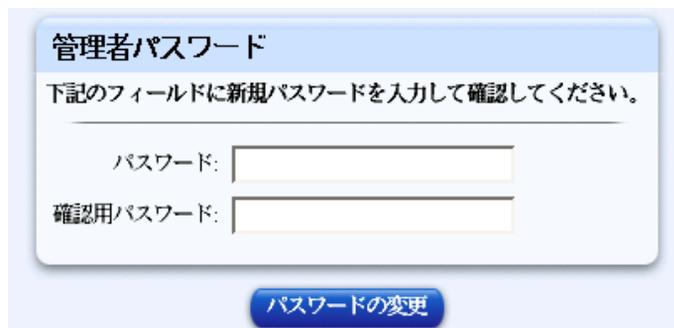
2. パスワードを変更します。

確認のため、パスワードを 2 度入力します。

パスワードの選択については、26 ページの「パスワード選択の手引き」を参照してください。

3. 「Change Password」 をクリックします。

設定がシステムに保存され、画面が更新され、「Password changed successfully」というメッセージが表示されます。



The screenshot shows a web interface for changing the administrator password. It features a light blue header with the title '管理者パスワード' (Administrator Password). Below the header, there is a instruction: '下記のフィールドに新規パスワードを入力して確認してください。' (Please enter the new password in the following fields and confirm). There are two input fields: 'パスワード:' (Password) and '確認用パスワード:' (Confirmation Password). At the bottom of the form, there is a blue button labeled 'パスワードの変更' (Change Password).

図 2-6 「Administrator Password」 テーブル

パスワード選択の手引き

パスワードを選択するときは、次の手引きに従ってください。

1. 3～16個の英数字を使用します。有効な文字は、a-z A-Z 0-9 % ! @ \$ ^ & * - _ = \ | . , / ? ; : + です。
2. 大文字と小文字の両方を使用します。

注 - パスワードは大文字と小文字が区別されます。

3. 固有名詞を使用しないようにします。
4. 辞書にある単語を使用しないようにします。
5. 日付を使用しないようにします。
6. UNIX® コマンドを使用しないようにします。
7. キーボードで並んでいるキーを使用した文字列を使用しないようにします (「qwerty」など)。

第3章

システム管理の機能

この章では、システム管理の機能について説明します。システム管理者は、次の操作が可能です。

- 管理対象ホストの追加または削除
- 管理対象ホストのグループの作成
- タスクやイベントの確認
- 制御モジュールのインストールおよび管理
- 1つまたは複数のタスクの実行スケジュールの設定

注 - この章に示すほとんどの手順では、最初の手順で左側のメニューバーにある「Administration」をクリックし、2番目の手順でサブメニューの項目をクリックします。

各手順の数を減らすため、メニューコマンドをまとめて説明しています。各項目の間に大なり括弧を入れてあります。

たとえば、「Administration」>「Tasks」は、左側のメニューバーにある「Administration」をクリックしてから、サブメニューの「Task」項目をクリックすることを意味します。

Sun Control Station は、次の6つのモジュールがインストールされた状態で出荷されます。

- ソフトウェア管理 (Software Management)
- 健全性監視 (Health Monitoring)
- パフォーマンス監視 (Performance Monitoring)
- AllStart

- 電源管理 (LOM, Lights Out Management)
- 目録処理 (Inventory)

各モジュールの詳細は、それぞれに対応する PDF の文書で説明しています。ドキュメントは、UI またはソフトウェアの CD からアクセスできます。詳細は、8 ページの「オンラインマニュアル」を参照してください。

選択ウィンドウ

Sun Control Station のいくつかの機能には、選択ウィンドウを使用します。この節では、選択ウィンドウについて説明します。

選択ウィンドウでは、次のようなタスクを実行する管理対象ホストを選択します。タスクは、使用している制御モジュールによって異なります。

- ホストの削除または変更
- グループへのホストの追加
- グループからのホストの削除
- ソフトウェアパッケージ情報の表示
- ソフトウェアパッケージのパブリッシュ、インストール、またはダウンロード
- ホストのパフォーマンスまたは目録処理情報の更新

選択ウィンドウの上部のフレームには、次の 2 つのオプションがあります。

- 「Select All」 - このオプションを選択すると、リスト内のすべての管理対象ホストをタスクの対象として選択できます。
- 「Deselect All」 - このオプションを選択すると、選択されているホストの選択を解除できます。

タスクを実行する 1 つまたは複数のホストを選択するには、リスト内の項目をクリックするか、「Select All」をクリックします。また、グループ名をクリックすることで、グループ内のすべてのホストを選択することもできます。

選択されている 1 つの項目は青で強調表示されます。グループ内の 1 つのホストが選択されている場合は、グループ名が灰色で強調表示されます。グループ内のすべてのホストが選択されている場合は、グループ名が濃い青で強調表示されます。

1 つまたは複数のホストの選択を解除するには、強調表示されているホストをクリックするか、「Deselect All」をクリックします。また、グループ名をクリックすることで、グループ内のすべてのホストの選択を解除することもできます。

ホストの選択を完了したら、実行するタスクのボタンをクリックします。右上に、選択されているホスト数が表示されます (10 項目中 3 項目など)。

「Administration」メニュー

注 - 制御モジュールは、「Control Modules」画面の左側にあるメニューにも表示されます。

個々の制御モジュールについては、対応するマニュアルを参照してください。

システム管理者が、ホスト、モジュール、およびタスクの管理に使用できる機能およびサービスは、「Administration」というメニューに集約されています。これらの機能とサービスについては、このあとで説明します。

- ホスト
- モジュール
- グループ
- タスク
- スケジュール

タスクおよびイベント

Sun Control Station で行う処理をタスクおよびイベントといいます。

「タスク」は、開始点と終了点が決まっている処理です。たとえば、ホストの追加や、制御モジュールのアップロードが該当します。タスクはユーザーが開始します。

タスクを開始すると、1 つまたは複数のイベントが生成されます。「イベント」は、タスクの一部についての情報を示す通知メッセージです。タスクには複数のイベントが含まれる場合があります。イベントは、Control Station、または管理対象ホスト上のエージェントによって生成されます。

タスクは、Sun Control Station の UI の複数の場所から実行できます。たとえば、ホストのグループの作成は、「Managed Hosts」テーブルから、および左側の「Administration」>「Groups」メニュー項目から実行できます。「Schedule」オプションは、複数の画面に表示され、また「Administration」>「Schedule」メニュー項目から起動することもできます。制御モジュールのタスクは、左側のメニューからそのモジュールを選択せずに、「Managed Hosts」テーブルから起動することもできます。

タスクをバックグラウンドで実行

ホストを追加するとき、目録処理情報を更新するときなど、「Task Progress」ダイアログが画面に表示されているときは、このダイアログをバックグラウンドに移動できます。バックグラウンドに移動するには、ダイアログの下にある「Run Task In Background」をクリックします。すると、このタスクの実行中に UI から別のタスクを実行できます。

「Task Progress」ダイアログに戻るには、「Administration」>「Tasks」を選択します。タスクのテーブルが表示されます。タスクがまだ実行中の場合は、「Duration」列に状態メッセージが表示されます。この列の進行状況バーのアイコンをクリックすると、このタスクの「Task Progress」ダイアログが再表示されます。

スケジュール

スケジュール機能（「スケジューラ」ともいう）を使用すると、1 つまたは複数のタスクをあとで実行するスケジュールを設定できます。

Sun Control Station によってタスクのスケジュールを設定できる場合は、テーブルまたは選択ウィンドウに「Schedule」というボタンが表示されます。

スケジュールを設定できるタスクには、目録処理処理またはパフォーマンスのモジュールの情報の更新、新しい制御モジュールのインストール、新しいホストの追加（個々に、またはファイルから）などがあります。

スケジュールについては、5 ページの「スケジュール」を参照してください。

ホスト

「Hosts」メニュー項目を使用すると、システム管理者は、Sun Control Station で管理するホストを追加、削除、または変更できます。また、管理対象ホストのグループを作成したり、Control Station の制御モジュールを管理したり、スケジュールが設定されたタスクを表示したり、新しいタスクのスケジュールを設定したり、Control Station で発生したタスクやイベントを表示したりできます。

管理対象ホストの表示

現在 Control Station で管理しているホストを表示するには、「Administration」>「Hosts」を選択します。選択ウィンドウに「Managed Hosts」テーブルが表示されます (図 3-1 を参照)。

ホストの追加

Sun Control Station には、次の 2 通りの方法でホストを追加できます。

- 1 つのホストを追加する
- ホストのリストを含むファイルをインポートする

注 - Sun Cobalt サーバーアプライアンス以外の管理対象ホストについては、Control Station のエージェントをホストにインストールし、使用可能にする必要がある場合があります。

エージェントをインストールし、使用可能にする方法については、『ソフトウェアインストール』(PDF ファイル) を参照してください。

1 つのホストを追加する

1 つのホストを追加するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」>「Hosts」を選択します。

選択ウィンドウに「Managed Hosts」テーブルが表示されます (図 3-1 を参照)。

2. 「Managed Hosts」 テーブルの右下にある「Add」をクリックします。

「Add Host」 テーブルが表示されます (図 3-2 を参照)。

3. 下記のパラメータを設定します。

- 「IP Address or Host Name」 - IP アドレスまたはホストの完全ドメイン名を入力します。

注 - 入力するホスト名は、Sun Control Station が使用するドメインネームシステム (DNS) サーバーによってリゾルブできる必要があります。

- 「User Name」 - ホストのシステム管理者のユーザー名を入力します。

注 - Sun サーバー (Sun LX50 サーバーなど) には、ユーザー「admin」がありません。この場合、次のいずれかの処理を行うことができます。

- a) インポート前にサーバーにユーザー「admin」を作成する
 - b) ユーザー名「root」、および「root」のパスワードを入力する
-

- 「Password」 - ホストのシステム管理者のパスワードを入力します。
- 「Email Address」 (省略可能) - ホストの担当者の電子メールアドレスを入力します。
- 「Description」 (省略可能) - ホストの説明を入力します。たとえば、「Server in Joe's office」 (ジョーのオフィスにあるサーバー) などとします。
- 「Install All Possible Modules」 - このホストにインストールできる制御モジュールをすべて、Control Station によってインストールするには、このチェックボックスを有効にします。

4. 「Add Host」をクリックします。

「Task Progress」 ダイアログが表示されます。

注 - ホストをあとで追加するスケジュールを設定することもできます。詳細は、5 ページの「スケジュール」を参照してください。



図 3-1 「Managed Hosts」 テーブルの例

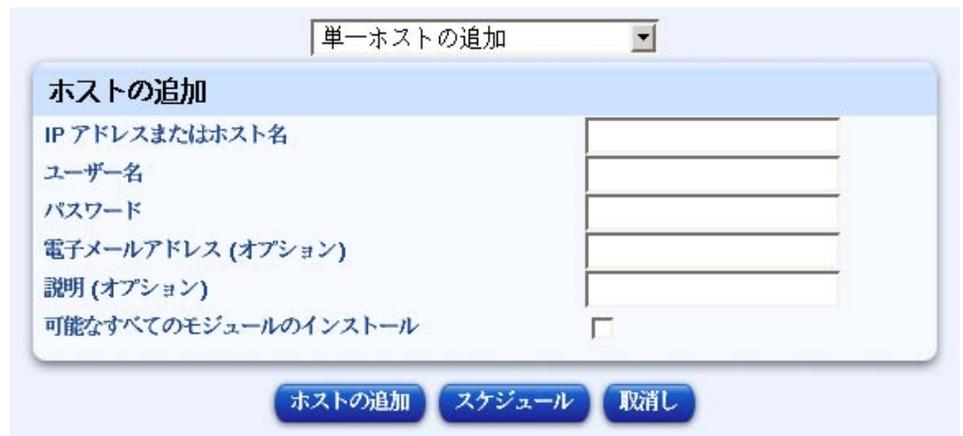


図 3-2 「Add Host」 テーブル

ホストのリストのインポート

ホストのリストの作成については、35 ページの「ホストのリストの作成」を参照してください。

ファイルから、ホストのリストを追加するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Hosts」 を選択します。
選択ウィンドウに「Managed Hosts」テーブルが表示されます。
2. 「Managed Hosts」テーブルの右下にある「Add」をクリックします。
「Add Host」テーブルが表示されます (図 3-2 を参照)。
3. テーブルの上にあるプルダウンメニューから、「Add Hosts From A File」を選択します。
「Add Hosts From A File」テーブルが表示されます (図 3-3 を参照)。
4. 「Choose File or Browse...」をクリックしてファイルを探します。
5. これらのホストにインストールできる制御モジュールをすべて、Control Station によってインストールするには、「Install All Possible Modules」チェックボックスを有効にします。
6. 「Add Hosts」をクリックします。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

注 - ホストのリストをあとで追加するスケジュールを設定することもできます。詳細は、5 ページの「スケジュール」を参照してください。

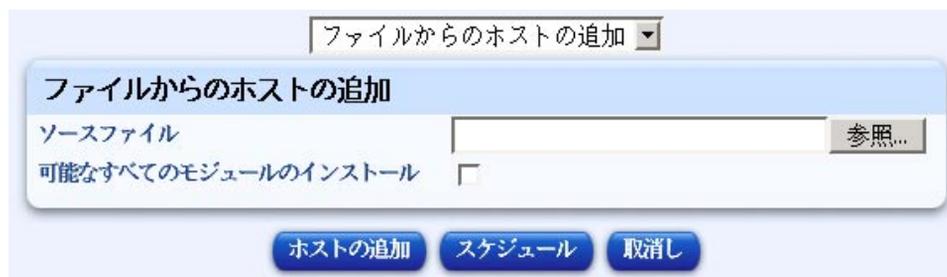


図 3-3 「Add Hosts From A File」テーブル

ホストのリストの作成

ホストのリストを含むファイルを作成し、このファイルを Sun Control Station にインポートできます。

ホストのリストをインポートするには、まず適切な形式のテキストファイルを作成します。各データフィールドの順序は、次のとおりです。データは 1 行で入力します。

```
<hostname_or_IP_address>|<username>|<admin_password>|  
<email_address>|<description>
```

ファイル構造を次に示します。

1. 各ホストについて次のデータを含めます。
 - a. ホスト名、またはホストの IP アドレス

注 - 入力するホスト名は、Sun Control Station が使用するドメインネームシステム (DNS) サーバーによってリゾルブできる必要があります。

DNS サーバーを指定していない場合は、ホストを IP アドレスでインポートする必要があります。

- b. システム管理者のユーザー名

注 - Sun サーバー (Sun LX50 サーバーなど) には、ユーザー「admin」がありません。この場合、次のいずれかの処理を行うことができます。

- a) インポート前にサーバーにユーザー「admin」を作成する
 - b) ユーザー名「root」、および「root」のパスワードを入力する

- c. システム管理者のパスワード
 - d. 通知用の電子メールアドレス (省略可能)
 - e. ホストの説明 (省略可能)
2. ファイル内では、ホストごとに 1 行を使用します。
3. 各データフィールドは「|」文字で区切ります。「|」文字の前後に空白文字は入れません。データ文字列ではコンマやタブを使用できます。

4. フィールドが空の場合も、後ろに「|」文字は必要です。ただし、最後のフィールドの後に「|」文字は不要です。
5. Control Station では、電子メールアドレスが有効かどうかは確認されません。
6. ファイルはテキスト形式で保存します。

ファイルの例

7つのホストがある場合のファイルの例を次に示します。

```
raq4|admin|abc123||  
raq3|admin|abc123|joe@asdfg.com  
10.9.32.100|admin|abc123||  
10.9.32.111|admin|abc123|joe@asdfg.com  
10.9.32.114|admin|abc123|joe@asdfg.com|Sun Cobalt Qube 3 at home  
10.9.32.115|admin|abc123||x86 RH7.3 server on top shelf  
10.9.32.116|admin|abc123||Sun Fire V60x in my office  
10.9.32.117|root|abc123|joe@asdfg.com|Ultra 80 in hardware lab
```

ホストの変更

通知用の電子メールアドレスまたはホストの説明を変更できます。

管理対象ホストを変更するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Hosts」 を選択します。
選択ウィンドウに「Managed Hosts」テーブルが表示されます。
2. 選択ウィンドウで、変更する1つまたは複数のホストをクリックして選択します。
「Select All」をクリックしてリスト内のホストをすべて選択することもできます。
3. 右下の「Modify」をクリックします。
「Modify Host」テーブルが表示されます。
4. 次の設定を変更できます。
 - 「Email Address」(省略可能) - ホストの担当者の電子メールアドレスを入力します。

- 「Description」 (省略可能) - ホストの説明を入力します。たとえば、「Sun LX50 server in Room」 (2321 号室の Sun LX50 サーバー) などと入力します。
5. タスクをキャンセルし、前のリストに戻るには、「Cancel」をクリックします。
 6. タスクを実行するには、「Save」をクリックします。
変更された情報が「Managed Hosts」テーブルに表示されます。

グループの作成

「Managed Hosts」テーブルから、管理対象ホストのグループを作成するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Hosts」を選択します。
選択ウィンドウに「Managed Hosts」テーブルが表示されます。
2. 選択ウィンドウで、新しいグループに含める 1 つまたは複数のホストをクリックして選択します。「Select All」をクリックしてリスト内のホストをすべて選択することもできます。
3. 右下の「Group」をクリックします。
「Create A New Group」テーブルが表示されます (図 3-4 を参照)。
4. 次の設定を行います。
 - 「Group Name」 - グループの名前を入力します。
 - 「Description」 (省略可能) - グループの説明を入力します (255 文字以内)。
5. タスクをキャンセルし、「Managed Hosts」テーブルに戻るには、「Cancel」をクリックします。
6. タスクを実行するには、「Save」をクリックします。
「Groups」テーブルに新しいグループが表示されます。
「Groups」テーブルでは、グループの詳細を表示したり、グループを変更または削除したりできます。ホストをグループに追加またはグループから削除することもできます。詳細は、49 ページの「グループ」を参照してください。

新規グループの作成

グループ名

説明 (オプション)

保存 取消し

図 3-4 「Create A New Group」 テーブル

インストールされている制御モジュールのレポートの表示

「Managed Hosts」 テーブルで選択したホストにインストールされている制御モジュールのレポートを表示できます。

結果のテーブルでは、左側のメニューから制御モジュールを選択せずに、特定のホストに対して制御モジュールのタスクを実行できます。

ホストにインストールされているモジュールのレポートを表示するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Hosts」 を選択します。
選択ウィンドウに「Managed Hosts」 テーブルが表示されます。
2. 選択ウィンドウで、制御モジュールのタスクを実行する 1 つまたは複数のホストをクリックして選択します。「Select All」 をクリックしてリスト内のホストをすべて選択することもできます。
3. 下の「Modules」 をクリックします。
「Control Module Installation Report For Hosts」 テーブルが表示されます (図 3-5 を参照)。
このテーブルには、選択したホストと、次の情報が表示されます。
 - 「Host Name」 - ホスト名、またはホストの IP アドレス
 - 「Class」 - ホストのクラス (ある場合)
 - 「Eligible」 - このホストにインストールできる制御モジュールの数 (一部の制御モジュールは、特定のクラスのホストだけにインストール可能)
 - 「Installed」 - ホストにインストールされている制御モジュールの数

- 「Failed」 - ホストにインストールできなかった制御モジュールの数
- 「Actions」 - 実行する処理に対応する次のアイコン
 - 虫めがねのアイコン：ホストにインストールできる制御モジュール、モジュールのバージョンとベンダー、モジュールの状態 (インストール済みまたは未インストール)、および「Action」列を含む別のテーブルが表示されます (図 3-6 を参照)。

モジュールのクライアント側コンポーネントがホストにインストールされている場合、「Action」列の負符号のアイコンをクリックしてこれらのコンポーネントを削除できます。クライアント側コンポーネントがインストールされていない場合、正符号のアイコンをクリックしてこれらのコンポーネントをインストールできます。

詳細は、45 ページの「選択したホストへのクライアント側コンポーネントのインストール」および 46 ページの「選択したホストからのクライアント側コンポーネントの削除」を参照してください。

- 目録処理のアイコン：IP アドレスとホスト名、システムメモリー、CPU、ネットワークインタフェースカード (NIC) など、ホストの目録処理情報が表示されます。
 - パフォーマンスのアイコン：IP アドレスとホスト名、メモリー使用率、ファイルシステム使用率など、ホストのパフォーマンス情報が表示されます。
4. 「Managed Hosts」テーブルに戻るには、右上にある上矢印のアイコンをクリックします。

ホストの Control モジュールインストールレポート						
ホスト名	クラス	対象となる	インストール済み	失敗	処理	
192.168.2.250	x86 Red Hat 7.3	5	5	0		
192.168.2.251	x86 Red Hat 7.2	5	5	0		
192.168.2.249	x86 Red Hat 7.3	5	5	0		
192.168.2.252	x86 Red Hat 7.3	5	5	0		

図 3-5 制御モジュールのインストールレポートの例

192.168.2.250 の対象となる Control モジュール				
名前	バージョン	ベンダー	状態	処理
health	2.1-18	Sun Microsystems, Inc.	インストール済み	—
inventory	2.1-18	Sun Microsystems, Inc.	インストール済み	—
performance	2.1-18	Sun Microsystems, Inc.	インストール済み	—
swmgmt	2.1-18	Sun Microsystems, Inc.	インストール済み	—
allstart	2.1-18	Sun Microsystems, Inc.	インストール済み	—

図 3-6 <ホスト>にインストールできる制御モジュールのテーブル

ホストの削除

管理対象ホストを削除するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Hosts」 を選択します。
 選択ウィンドウに「Managed Hosts」テーブルが表示されます。
2. 選択ウィンドウで、削除する 1 つまたは複数のホストをクリックして選択します。
 「Select All」 をクリックしてリスト内のホストをすべて選択することもできます。
3. 下の「Remove」 をクリックします。
 選択したホストの削除を確認する確認テーブルが表示されます。
4. タスクをキャンセルし、選択ウィンドウに戻るには、「Cancel」 をクリックします。
5. タスクを実行するには、「Remove Host」 をクリックします。
 「Task Progress」 ダイアログが表示されます。

モジュール

Sun Control Station にインストールされている制御モジュールを表示するには、「Administration」>「Modules」を選択します。「Control Modules」テーブルが表示されます (図 3-7 を参照)。

このテーブルでは、制御モジュールのクライアント側コンポーネントをホストに追加したり、ホストから削除したり、特定の制御モジュールに関する詳細を表示したり、制御モジュールを Sun Control Station から削除し、クライアント側コンポーネントをすべてのホストから削除したりできます。

「Control Modules」テーブル

「Control Modules」テーブルには、次の 7 つの列があります。

- 「Name」 - 制御モジュールの名前
- 「Version」 - 制御モジュールのバージョン番号
- 「Vendor」 - 制御モジュールのベンダー
- 「Eligible」 - この制御モジュールをインストールできるホストの数
- 「Installed」 - この制御モジュールがインストールされているホストの数
- 「Failed」 - この制御モジュールをインストールできなかったホストの数
- 「Actions」 - 制御モジュールのクライアント側コンポーネントのホストへの追加またはホストからの削除、モジュールの詳細の表示、Control Station からのモジュールの削除

Control モジュール						
名前 ▼	バージョン	ベンダー	対象となる	インストール済み	失敗	処理
AllStart	2.1-18	Sun Microsystems, Inc.	1	1	0	+ - ! 🔍 🔄
AllStart-Grizzly-Images	2.1-18	Sun Microsystems, Inc.	0	0	0	+ - ! 🔍 🔄
Health Monitor	2.1-18	Sun Microsystems, Inc.	1	1	0	+ - ! 🔍 🔄
Inventory	2.1-18	Sun Microsystems, Inc.	1	1	0	+ - ! 🔍 🔄
Performance	2.1-18	Sun Microsystems, Inc.	1	1	0	+ - ! 🔍 🔄
Software Management	2.1-18	Sun Microsystems, Inc.	1	1	0	+ - ! 🔍 🔄

モジュールの追加

図 3-7 「Control Modules」 テーブル

制御モジュールのリストは、モジュールの名前、バージョン番号、ベンダー、モジュールをインストールできるホスト数、またはモジュールがインストールされたホスト数やモジュールをインストールできなかったホスト数に従って、昇順または降順で並べ替えることができます。

昇順とは、低い値から高い値の順です (a から z、または 1 から 9)。降順とは、高い値から低い値の順です (z から a、または 9 から 1)。「Control Modules」テーブルは、デフォルトでモジュール名の昇順で表示されます。

並べ替え基準となっている列の見出しには、下 (昇順) または上 (降順) を向く三角形のアイコンが表示されます。

制御モジュールの追加

Control Station に制御モジュールを追加すると、この新しいモジュールのメニュー項目が、UI の左側のリストに表示されます。

制御モジュールを追加するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Modules」 を選択します。
「Control Modules」 テーブルが表示されます。
2. テーブルの下にある「Add Module」 をクリックします。
「Add Module」 テーブルが表示されます (図 3-8 を参照)。

3. ラジオボタンを1つクリックし、制御モジュールパッケージの場所を入力します。
 - 制御モジュールをインターネットからダウンロードするには、http:// または ftp:// から始まる URL を入力します。
 - 制御モジュールを検索するには、「Choose File」をクリックします。
4. この手順でクライアント側コンポーネントをインストール可能なすべてのホストにインストールする場合は、「Install On All Eligible Hosts」チェックボックスを有効にします。

すべてのホストにインストールしない場合は、モジュールのコンポーネントをインストールするホストをあとで選択できます。
5. 「Install Now」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

注 - 新しい制御モジュールをあとでインストールするスケジュールを設定することもできます。詳細は、5 ページの「スケジュール」を参照してください。

注 - 新規に追加した制御モジュールが左側のメニューに表示されない場合は、ブラウザウィンドウを更新してください。

このモジュールのマニュアルがある場合は、オンラインマニュアルのリストに追加されます。詳細は、8 ページの「オンラインマニュアル」を参照してください。

図 3-8 「Add Module」 テーブル

制御モジュールの詳細の表示

制御モジュールの詳細を表示するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Modules」 を選択します。
「Control Modules」 テーブルが表示されます。
2. リスト内で、詳細を表示するモジュールを探します。
3. 「Actions」 列の虫めがねのアイコンをクリックします。

「Eligible Servers For <制御モジュール>」 テーブルが表示されます (図 3-9 を参照)。

このテーブルには、モジュールがインストールされているホストの IP アドレスまたはホスト名、ホストのクラス、および各ホストのモジュールのインストールの状態が表示されます。

モジュールのクライアント側コンポーネントがホストにインストールされている場合、「Actions」 列の負符号のアイコンをクリックしてこれらのコンポーネントを削除できます。クライアント側コンポーネントがインストールされていない場合、正符号のアイコンをクリックしてこれらのコンポーネントをインストールできます。

詳細は、45 ページの「選択したホストへのクライアント側コンポーネントのインストール」 および 46 ページの「選択したホストからのクライアント側コンポーネントの削除」 を参照してください。

4. 「Control Modules」 テーブルに戻るには、右上にある上矢印のアイコンをクリックします。



ホスト名	クラス	インストール状態	処理
192.168.2.250	x86 Red Hat 7.3	インストール済み	[-] [+] [x]
192.168.2.251	x86 Red Hat 7.2	インストール済み	[-] [+] [x]
192.168.2.249	x86 Red Hat 7.3	インストール済み	[-] [+] [x]

図 3-9 「Eligible Servers For <制御モジュール>」 テーブル

選択したホストへのクライアント側コンポーネントのインストール

制御モジュールを追加したが、クライアント側コンポーネントを適格なホストにインストールしていない場合は、選択したホストにクライアント側コンポーネントをインストールできます。

クライアント側コンポーネントは、次の手順で1つまたは複数のホストにインストールできます。

1. 「Administration」 > 「Modules」 を選択します。

「Control Modules」 テーブルが表示されます。

2. リスト内で、クライアント側コンポーネントをインストールするモジュールを探します。

モジュールがインストールされていない適格なホストがある場合は、「Actions」列の正符号のアイコンが使用可能です。

▼ クライアント側コンポーネントを複数のホストにインストールするには

3. 正符号のアイコンをクリックします。

選択ウィンドウに適格なホストが表示されます (図 3-9 を参照)。

4. 選択ウィンドウで、クライアント側コンポーネントをインストールする1つまたは複数のホストをクリックして選択します。「Select All」をクリックすれば、リスト内のすべてのクライアントを選択できます。

5. 下の「Install Now」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

注 - クライアント側コンポーネントをあとでインストールするスケジュールを設定することもできます。詳細は、5 ページの「スケジュール」を参照してください。

▼ クライアント側コンポーネントを 1 つのホストにインストールするには

6. 虫めがねのアイコンをクリックすると、「Eligible Servers For <制御モジュール>」テーブルが表示されます。
7. モジュールのクライアント側コンポーネントをインストールするホストの横にある正符号のアイコンをクリックします。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

選択したホストからのクライアント側コンポーネントの削除

クライアント側コンポーネントを、次の手順で 1 つまたは複数のホストから削除できます。

1. 「Administration」 > 「Modules」を選択します。
「Control Modules」テーブルが表示されます。
2. リスト内で、クライアント側コンポーネントを削除するモジュールを探します。
モジュールがインストールされているホストがある場合は、「Actions」列の負符号のアイコンが使用可能です。

▼ クライアント側コンポーネントを複数のホストから削除するには

3. 負符号のアイコンをクリックします。
選択ウィンドウに適格なホストが表示されます (図 3-9 を参照)。
4. 選択ウィンドウで、クライアント側コンポーネントを削除する 1 つまたは複数のホストをクリックして選択します。「Select All」をクリックしてリスト内のホストをすべて選択することもできます。
5. 下の「Uninstall Now」をクリックします。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

注 - クライアント側コンポーネントをあとで削除するスケジュールを設定することもできます。詳細は、5 ページの「スケジュール」を参照してください。

▼ クライアント側コンポーネントを1つのホストから削除するには

6. 虫めがねのアイコンをクリックすると、「Eligible Servers For <制御モジュール>」テーブルが表示されます。
7. モジュールのクライアント側コンポーネントを削除するホストの横にある負符号のアイコンをクリックします。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

インストールの再試行

制御モジュールのクライアント側コンポーネントが正常にホストにインストールされない場合があります。正常にインストールされたかどうかは「Control Modules」テーブルでわかります。インストールが失敗したホストの数が「Failed」列に表示されます。これらのホストのリストを確認し、コンポーネントのインストールを再試行できます。

クライアント側コンポーネントのインストールを再試行するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Modules」 を選択します。
「Control Modules」テーブルが表示されます。
2. リスト内で、インストール失敗のレポートを表示するモジュールを探します。
3. 「Actions」列の感嘆符のアイコンをクリックします。
クライアント側コンポーネントのインストールに失敗したホストが選択ウィンドウに表示されます。
4. 選択ウィンドウで、クライアント側コンポーネントのインストールを再試行する1つまたは複数のホストをクリックして選択します。「Select All」をクリックしてリスト内のホストをすべて選択することもできます。
5. 右下にある「Retry Now」をクリックします。
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

注 - クライアント側コンポーネントをあとで再インストールするスケジュールを設定することもできます。詳細は、5ページの「スケジュール」を参照してください。

制御モジュールの削除

注 - 健全性監視など、インストール済みの 5 つの制御モジュールのいずれかを削除すると、あとで Sun Control Station から再インストールできません (モジュールは Control Station に保存されていない)。

インストール済みの制御モジュールについては、27 ページの「システム管理の機能」を参照してください。

Sun Control Station 2.0 の CD-ROM がある場合は、/MAPPS ディレクトリに制御モジュールがあります。

Control Station へのモジュールの追加については、42 ページの「制御モジュールの追加」を参照してください。

制御モジュールを削除するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Modules」を選択します。
「Control Modules」テーブルが表示されます。
2. リスト内で、削除する制御モジュールを探します。
3. 「Actions」列の削除のアイコンをクリックします。
削除を確認する「Confirm Removal Of Control Module」テーブルが表示されます。
4. 「Remove Module」をクリックします。
更新された情報が「Control Modules」テーブルに表示されます。

制御モジュールを削除すると、サーバー側コンポーネントがすべて Sun Control Station から削除されます。また、管理対象ホストにアクセス可能な場合は、そのモジュールがインストールされているホストから、クライアント側コンポーネントがすべて削除されます。

グループ

複数のホストを1つのグループ名でグループ化できます。グループを使用すると、たとえば地理的な位置やホストのクラスに従ってホストを管理できます。

「Groups」テーブル

「Groups」テーブルには、次の4つの列があります (図 3-10 を参照)。

- Name
- Description
- Hosts
- Actions

グループ			
名前 ▼	説明	ホスト	処理
BLDG-03	Servers in Building 3	3	+ - 🔍 ✎ 🔄
BLDG-16	Servers in Building 16	3	+ - 🔍 ✎ 🔄
Regina	Servers in Regina, SK office	2	+ - 🔍 ✎ 🔄
Shana	Servers in Shana office	2	+ - 🔍 ✎ 🔄
Tom	Servers in Tom office	6	+ - 🔍 ✎ 🔄
Urbana	Servers in Urbana, IL office	4	+ - 🔍 ✎ 🔄

グループの作成

図 3-10 「Groups」テーブル

グループのリストは、グループの名前、グループの説明、またはグループ内のホスト数の昇順または降順で並べ替えることができます。

昇順とは、低い値から高い値の順です (a から z、または 1 から 9)。降順とは、高い値から低い値の順です (z から a、または 9 から 1)。「Groups」テーブルは、デフォルトでグループ名の昇順で表示されます。

並べ替え基準となっている列の見出しには、下 (昇順) または上 (降順) を向く三角形のアイコンが表示されます。

「Action」列

グループを作成すると、そのグループに対してさまざまな操作を行うことができます。これらの操作は、「Groups」テーブルの「Actions」列にあります。各操作については、この項で詳しく説明します。

- グループの変更
- グループの詳細の表示
- グループへのホストの追加
- グループからのホストの削除
- グループの削除

グループの追加

管理対象ホストのグループを作成するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Groups」を選択します。

「Groups」テーブルが表示されます。

2. テーブルの下にある「Create Group」をクリックします。

「Create A New Group」テーブルが表示されます (図 3-11 を参照)。

3. 次の情報を入力します。

- 「Group Name」 - グループの名前を入力します。
- 「Description」 (省略可能) - このグループの簡単な説明を入力します。説明には 255 文字まで使用できます。
- 「Choose Hosts To Add」 - この手順でグループにホストを追加する場合は、このチェックボックスを有効にします。

4. 「Save」をクリックします。

「Choose Hosts To Add」チェックボックスをクリックしなかった場合は、ホストを含まない新しいグループが「Groups」テーブルに表示されます。

「Choose Hosts To Add」チェックボックスをクリックした場合は、管理対象ホストのリストが選択ウィンドウに表示されます。

5. 選択ウィンドウで、グループに追加する 1 つまたは複数のホストをクリックして選択します。「Select All」をクリックしてリスト内のホストをすべて選択することもできます。
6. 右下の「Add」をクリックします。
「Groups」テーブルに新しいグループが追加されます。グループは、グループ名の昇順で表示されます。



新規グループの作成

グループ名

説明 (オプション)

新規グループを追加するホストの選択

保存 取消し

図 3-11 「Create A New Group」テーブル

グループの変更

グループの名前または説明を変更できます。

グループを変更するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Groups」を選択します。
「Groups」テーブルが表示されます。
2. リスト内で、変更するグループを探します。
3. 「Action」列の鉛筆のアイコンをクリックします。
「Modify Group」テーブルが表示されます。
4. グループの名前または説明を変更できます。「Description」フィールドは省略可能です。
5. 「Save」をクリックします。
変更された情報が「Groups」テーブルに表示されます。

グループの詳細の表示

特定のグループに含まれるホストを確認できます。

グループの詳細を表示するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Groups」 を選択します。
「Groups」 テーブルが表示されます。
2. リスト内で、詳細を表示するグループを探します。
3. 「Action」 列の虫めがねのアイコンをクリックします。
グループ内の管理対象ホストのリストが選択ウィンドウに表示されます。
「Actions」 列からタスクを実行できます。
4. グループのリストに戻るには、右上にある上矢印のアイコンをクリックします。
「Groups」 テーブルが表示されます。

グループへのホストの追加

既存のグループにホストを追加できます。

ホストを追加するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Groups」 を選択します。
「Groups」 テーブルが表示されます。
2. リスト内で、ホストを追加するグループを探します。
3. 「Actions」 列の正符号のアイコンをクリックします。
選択ウィンドウが表示され、Sun Control Station に管理対象ホストの一覧が提示されます。
4. 選択ウィンドウで、グループに追加する 1 つまたは複数のホストをクリックして選択します。「Select All」 をクリックしてリスト内のホストをすべて選択することもできます。
別のグループのホストを選択して、現在のグループに追加できます。この場合、このホストは両方のグループのメンバーとして表示されます。

5. 右下の「Add」をクリックします。

更新された情報が「Groups」テーブルに表示されます。グループは、グループ名の昇順で表示されます。

グループからのホストの削除

既存のグループからホストを削除できます。

ホストを削除するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Groups」を選択します。

「Groups」テーブルが表示されます。

2. リスト内で、ホストを削除するグループを探します。

3. 「Actions」列の負符号のアイコンをクリックします。

グループ内の管理対象ホストのリストが選択ウィンドウに表示されます。

4. 選択ウィンドウで、グループから削除する 1 つまたは複数のホストをクリックして選択します。「Select All」をクリックしてリスト内のホストをすべて選択することもできます。

5. 右下の「Remove」をクリックします。

更新された情報が「Groups」テーブルに表示されます。グループは、グループ名の昇順で表示されます。

グループの削除

既存のグループを削除できます。

注 - グループを削除しても、そのグループ内の管理対象ホストは Sun Control Station から削除されません。

ホストの削除については、40 ページの「ホストの削除」を参照してください。

グループを削除するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Groups」 を選択します。
「Groups」 テーブルが表示されます。
2. リスト内で、削除するグループを探します。
3. 「Actions」 列の削除のアイコンをクリックします。
削除を確認する「Confirm Group Removal」 テーブルが表示されます。
4. 「Remove Group」 をクリックします。
更新された情報が「Groups」 テーブルに表示されます。

タスク

Sun Control Station のタスクとイベントについては、29 ページの「タスクおよびイベント」を参照してください。

「Tasks」 テーブル

「Tasks」 テーブルには、5 つの列があります (図 3-12 を参照)。

注 - 「Tasks」 テーブルに 11 個以上のエントリがある場合、最初の 10 個のエントリが表示されます。テーブルの下のボタンで、それ以外の範囲にあるエントリを選択できます。

「Tasks」 テーブルを表示するには、次の手順に従います。

- 「Administration」 > 「Tasks」 を選択します。
「Tasks」 テーブルが表示されます。このテーブルには、次の列があります。
 - 「Status」 - 次のいずれかのタスクの状態
 - 緑色の円にチェックマーク : 正常に完了
 - 黄色の円に感嘆符 : 警告付きで完了
 - 赤の円に X マーク : 失敗
 - 「Name」 - タスクを作成した機能コンポーネントの文字列名

- 「Start Date/Time」 - タスクが開始した日時
- 「Duration」 - タスクの完了に要した時間 (「hh:mm:ss」形式) またはタスクの進行状況バー (パーセント)
- 「Actions」 - 虫めがねのアイコンをクリックすると、タスクに関連付けられた個々のイベントを表示できます。イベントのリストを含む新しいテーブルが表示されます。「Tasks」テーブルに戻るには、右上にある上矢印のアイコンをクリックします。

タスクのリストは、タスクの名前、タスクの開始日時、タスクの所要時間の昇順または降順で並べ替えることができます。

昇順とは、低い値から高い値の順です (a から z、または 1 から 9)。降順とは、高い値から低い値の順です (z から a、または 9 から 1)。イベントのテーブルは、デフォルトで開始日時の昇順で表示されます。

並べ替え基準となっている列の見出しには、下 (昇順) または上 (降順) を向く三角形のアイコンが表示されます。

現在の項目:1-10		項目全体:70	
名前	開始日 / 時刻 ▲	継続時間	処理
✓ ホストの追加	2004-03-18 13:14:44.0	00:01:57	🔍
✓ Status Polling	2004-03-18 12:01:02.0	00:00:08	🔍
✓ Upload Package(s)	2004-03-18 11:34:58.0	00:00:05	🔍
✓ ホストへのモジュールのインストール	2004-03-18 11:32:53.0	00:00:35	🔍
✓ Status Polling	2004-03-18 11:32:16.0	00:00:15	🔍
✓ ホストへのモジュールのインストール	2004-03-18 11:31:16.0	00:00:29	🔍
✓ ホストからのモジュールのアンインストール	2004-03-18 11:30:38.0	00:00:06	🔍
✓ Upload Package(s)	2004-03-18 11:25:53.0	00:00:36	🔍
✓ Status Polling	2004-03-18 11:25:20.0	00:00:21	🔍
✓ ホストの追加	2004-03-17 19:12:46.0	00:02:32	🔍

1-10 11-20 21-30 次へ >>

図 3-12 「Tasks」テーブルの例

イベントのテーブル

システム内の特定のタスク用に生成されたイベントのリストを表示できます。

図 3-13 に、テーブルの例を示します。

注 - イベントのテーブルに 11 個以上のエントリがある場合、最初の 10 個のエントリが表示されます。テーブルの下のボタンで、それ以外の範囲にあるエントリを選択できます。

イベントのテーブルを表示するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Tasks」 を選択します。

「Tasks」 テーブルが表示されます。このテーブルには、次の列があります。

2. 特定のタスクのイベントを表示するには、「Actions」列の虫めがねのアイコンをクリックします。

「Events For <タスク>」 テーブルが表示されます。このテーブルには、次の列があります。

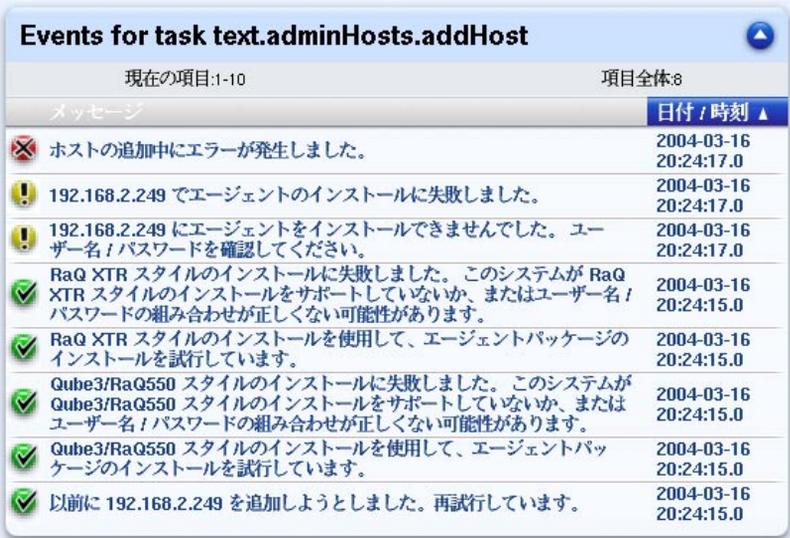
- 「Status」 - 次のいずれかのタスクの状態
 - 緑色の円にチェックマーク : 正常に完了
 - 黄色の円に感嘆符 : 警告付きで完了
 - 赤の円に X マーク : 失敗
- 「Message」 - イベントに関するメッセージ
- 「Start Date/Time」 - イベントが実行された日時

イベントのリストは、イベントのメッセージまたは開始日時に従って並べ替えることができます。

昇順とは、低い値から高い値の順です (a から z、または 1 から 9)。降順とは、高い値から低い値の順です (z から a、または 9 から 1)。イベントのテーブルは、デフォルトで開始日時の昇順で表示されます。

並べ替え基準となっている列の見出しには、下 (昇順) または上 (降順) を向く三角形のアイコンが表示されます。

3. 「Tasks」テーブルに戻るには、右上にある上矢印のアイコンをクリックします。
「Tasks」テーブルが表示されます。



Events for task text.adminHosts.addHost		項目全体:8
現在の項目:1-10		
メッセージ	日付 / 時刻	
✖ ホストの追加中にエラーが発生しました。	2004-03-16 20:24:17.0	
! 192.168.2.249 でエージェントのインストールに失敗しました。	2004-03-16 20:24:17.0	
! 192.168.2.249 にエージェントをインストールできませんでした。ユーザー名 / パスワードを確認してください。	2004-03-16 20:24:17.0	
✓ RaQ XTR スタイルのインストールに失敗しました。このシステムが RaQ XTR スタイルのインストールをサポートしていないか、またはユーザー名 / パスワードの組み合わせが正しくない可能性があります。	2004-03-16 20:24:15.0	
✓ RaQ XTR スタイルのインストールを使用して、エージェントパッケージのインストールを試行しています。	2004-03-16 20:24:15.0	
✓ Qube3/RaQ550 スタイルのインストールに失敗しました。このシステムが Qube3/RaQ550 スタイルのインストールをサポートしていないか、またはユーザー名 / パスワードの組み合わせが正しくない可能性があります。	2004-03-16 20:24:15.0	
✓ Qube3/RaQ550 スタイルのインストールを使用して、エージェントパッケージのインストールを試行しています。	2004-03-16 20:24:15.0	
✓ 以前に 192.168.2.249 を追加しようとしました。再試行しています。	2004-03-16 20:24:15.0	

図 3-13 イベントのテーブルの例

スケジュール

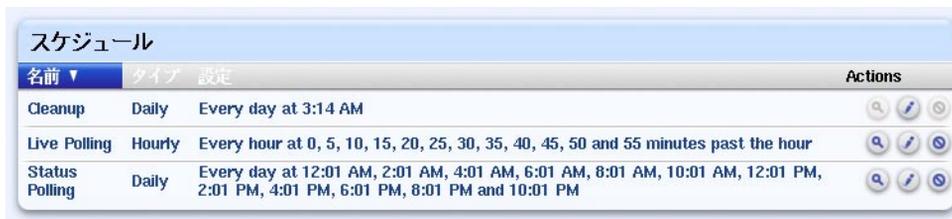
スケジュール機能については、5 ページの「スケジュール」を参照してください。

「Schedule」テーブルを表示するには、「Administration」>「Schedule」を選択します。図 3-14 にテーブルの例を示します。

「Schedule」テーブルには、次の 4 つの列があります。

- 「Name」 - スケジュールが設定されているタスクの名前
- 「Type」 - タスクが実行される頻度
- 「Settings」 - タスクが実行される日時
- 「Actions」 - スケジュールが設定されているタスクの詳細の表示、タスクの設定の変更、またはタスクの削除

特定のタスクについては、正符号または負符号のアイコンを使用して、ホストをタスクに追加またはタスクから削除できます。



スケジュール			
名前 ▼	タイプ	設定	Actions
Cleanup	Daily	Every day at 3:14 AM	  
Live Polling	Hourly	Every hour at 0, 5, 10, 15, 20, 25, 30, 35, 40, 45, 50 and 55 minutes past the hour	  
Status Polling	Daily	Every day at 12:01 AM, 2:01 AM, 4:01 AM, 6:01 AM, 8:01 AM, 10:01 AM, 12:01 PM, 2:01 PM, 4:01 PM, 6:01 PM, 8:01 PM and 10:01 PM	  

図 3-14 「Schedule」テーブル

スケジュールが設定されているタスクのリストは、タスクの名前、タスクのタイプ、またはタスクの設定の昇順または降順で並べ替えることができます。

昇順とは、低い値から高い値の順です (a から z、または 1 から 9)。降順とは、高い値から低い値の順です (z から a、または 9 から 1)。「Schedule」テーブルは、デフォルトでモジュール名の昇順で表示されます。

並べ替え基準となっている列の見出しには、下 (昇順) または上 (降順) を向く三角形のアイコンが表示されます。

クリーンアップ

クリーンアップは、スケジュールが設定された組み込みのタスクです。このタスクを使用すると、Sun Control Station に保管されているタスクとイベントのリストを整理できます。クリーンアップタスクは、1日1回実行されます。

注 - クリーンアップタスクは、テーブルから削除することも、無効にすることもできません。

クリーンアップタスクの設定を行うには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Schedule」 を選択します。
「Schedule」 テーブルが表示されます。
2. クリーンアップタスクの「Action」列で、鉛筆のアイコンをクリックします。
「Schedule Settings For Cleanup」 テーブルが表示されます。
3. 下記のパラメータを設定します。
 - 「Run Time」 - クリーンアップタスクを実行する時刻。このタスクでは、14日を経過しているタスクとイベントがすべて削除されます。
形式は「hh:mm」(24時間制)です。
 - 「Email Address」(省略可能) - クリーンアップタスクの実行時に通知を送信する電子メールアドレスを入力します。
 - 「Notify When Starting」 - クリーンアップタスクの開始時に通知する場合、このチェックボックスを有効にします。
 - 「Notify When Finished」 - クリーンアップタスクの完了時に通知する場合、このチェックボックスを有効にします。
4. 「Save」 をクリックします。
更新された設定が「Schedule」 テーブルに表示されます。

タスクのスケジュール設定の詳細の表示

タスクのスケジュール設定の詳細を表示するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Schedule」 を選択します。
「Schedule」 テーブルが表示されます。

2. 詳細を表示するタスクの横にある虫めがねのアイコンをクリックします。
「Tasks」テーブルが表示されます。このテーブルについては、54 ページの「「Tasks」テーブル」を参照してください。
3. 「Schedule」テーブルに戻るには、右上にある上矢印のアイコンをクリックします。

タスクのスケジュール設定の変更

タスクのスケジュール設定を変更するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Schedule」を選択します。
「Schedule」テーブルが表示されます。
2. 変更するタスクの横にある鉛筆のアイコンをクリックします。
「Schedule Settings for <タスク>」テーブルが表示されます。
3. 設定を変更します。
4. 「Save」をクリックします。
更新された設定が「Schedule」テーブルに表示されます。

タスクのスケジュール設定の削除

タスクのスケジュール設定を削除するには、次の手順に従います。

1. 「Administration」 > 「Schedule」を選択します。
「Schedule」テーブルが表示されます。
2. 削除するタスクの横にある削除のアイコンをクリックします。
タスクの削除を確認する確認テーブルが表示されます。
3. タスクをキャンセルし、選択ウィンドウに戻るには、「Cancel」をクリックします。
4. 続行するには、「Remove Schedule」をクリックします。
タスクが削除された状態で「Schedule」テーブルが表示されます。

ライセンス

BSD の著作権

Copyright ©1991, 1992, 1993, 1994 The Regents of the University of California. All rights reserved.

次の条件の下で、変更の有無にかかわらず、ソースコード形式およびバイナリ形式の再頒布および使用が許諾されます。

1. ソースコードを再頒布するときは、上記の著作権表示、この条件一覧、および次の免責事項を含めること
2. バイナリ形式を再頒布するときは、頒布時に含めるマニュアルまたはその他の資料、あるいはその両方に、上記の著作権表示、この条件一覧、および次の免責事項を掲載すること
3. このソフトウェアの機能または使用に言及する宣伝資料には、次の告知を掲載すること

「この製品には、カリフォルニア大学バークレー校およびその協力者によって開発されたソフトウェアが含まれます。」

4. 書面による事前の許可なく、当大学やその協力者の名前を、このソフトウェアから派生した製品の推奨または宣伝に使用しないこと

このソフトウェアは、当大学評議員およびその協力者によって「現状のまま」提供され、商品性および特定目的への適合性の保証を含みそれに限定されない、明示または黙示を問わない、いかなる保証を行うものではありません。評議員またはその協力者は、損害の可能性について知らされていたとしても、契約、厳格責任、または不法行

為 (過失などを含む) のいかなる責任の理論においても、またどのように生じたかにかかわらず、このソフトウェアの使用に起因する直接損害、間接損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害または結果損害 (代替品または代替サービスの調達、使用、データ、または利益の損失、業務の中断を含みそれに限定されない) に対する一切の責任を負いません。

GNU ジェネラルパブリックライセンス

第 2 版、1991 年 6 月

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.
59 Temple Place - Suite 330, Boston, MA 02111-1307, USA

複製、頒布、および改変に関する条項

0. このライセンスは、このジェネラルパブリックライセンスの条項の下で頒布できる、という告知が著作権保有者によって記載されたプログラムまたはその他の著作物に適用されます。以下で「プログラム」とは、このようなプログラムまたは著作物を指し、「『プログラム』を基にした著作物」とは「プログラム」自体、または著作権法に従って作成された派生物、すなわち、そのまままたは改変された、および別の言語に翻訳されたプログラムまたはその一部を含む著作物を指すものとします。(以下、翻訳はすべて「改変」という用語に含まれるものとします)。各ライセンスは「お客様」と呼ぶものとします。

複製、頒布、および改変以外の行為はこのライセンスの対象範囲外です。「プログラム」を実行する行為自体に制限はなく、「プログラム」の出力結果は、その内容が「『プログラム』を基にした著作物」を構成する場合にのみこのライセンスの対象となります(「プログラム」の実行によって作成されたかどうかは無関係です)。これが当てはまるかどうかは、「プログラム」が何をするのかに依ります。

1. お客様は、それぞれの複製物に適切な著作権表示と免責事項を明確かつ適切に含め、このライセンスおよび一切の無保証に言及する告知をすべてそのまま残し、「プログラム」の頒布先にこのライセンスの複製物を「プログラム」とともに頒布する場合にかぎり、「プログラム」のソースコードの複製物を、受け取ったとおりの形で、任意の媒体で複製および頒布できます。

お客様は、複製物の譲渡という物理的な行為に対して手数料を課すか、手数料と引き換えに保証の保護を提供できます。

2. お客様は、「プログラム」の複製物またはその一部を改変して「『プログラム』を基にした著作物」を作成し、その改変版または著作物を上記第 1 項の下で複製および頒布できます。この際には、次の条件をすべて満たしている必要があります。
 - a. ファイルを改変した旨とその変更日を、改変したファイルに明確に記すこと
 - b. 「プログラム」またはその一部を含む著作物、または「プログラム」またはその一部から派生した著作物を頒布または公開する場合には、その全体をこのライセンスの条項の下で第三者に無償で許諾すること
 - c. 改変したプログラムが実行時に対話形式でコマンドを読み取る場合は、最も一般的な方法で対話形式でそのプログラムが実行されるときに、適切な著作権表示、無保証であること（またはお客様が保証を提供すること）、ユーザーがこれらの条件の下でプログラムを頒布できること、およびこのライセンスの複製物を閲覧する方法をユーザーに示す告知が印刷または画面に表示されること（例外: 「プログラム」自体は対話形式だが、通常はこのような告知を印刷しない場合、「『プログラム』を基にした著作物」で告知を印刷する必要はない）

これらの条件は改変された著作物全体に適用されます。著作物の一部が「プログラム」から派生したものではないと確認でき、独立した別個の著作物であると合理的に考えられる場合は、これらを別個の著作物として頒布するときに、その部分にこのライセンスとその条項は適用されません。ただし、同じ部分を「『プログラム』を基にした著作物」全体の一部として頒布するときは、全体の頒布がこのライセンスの条項の対象となります。ほかのライセンスに与えられる許可は全体に及び、作成者に関係なくすべての部分に適用されます。

このように、この項の意図は、完全にお客様が作成した著作物について、権利を請求したり、お客様と権利関係を争うことではなく、「プログラム」に基づく派生物または集合物の頒布を管理する権利を行使することです。

また、「『プログラム』を基にした著作物」ではない別の著作物と「プログラム」（または「『プログラム』を基にした著作物」）を、単に同じ記憶ボリュームまたは配布媒体に集めたとしても、他方の著作物にこのライセンスは適用されません。

3. お客様は、次のいずれか 1 つを満たすかぎり、上記第 1 項および第 2 項に従って「プログラム」（または上記第 2 項で言及している「『プログラム』を基にした著作物」）をオブジェクトコードまたは実行可能な形式で複製および頒布できます。
 - a. 対応する機械読み取り可能なソースコード一式を添付すること。このとき、ソースコードは、上記第 1 項および第 2 項に従って、通常ソフトウェアの交換に用いる媒体で頒布すること

- b. 第三者に、ソースコード頒布に関わる実費以上の対価を要求せずに、対応する機械読み取り可能なソースコード一式の複製物を、上記第1項および第2項に従って、通常ソフトウェアの交換に用いる媒体で提供する旨を記載した、3年以上有効な書面を添付すること
- c. 対応するソースコードの頒布の申し出に際して、お客様が得た情報を添付すること(この選択肢は、営利を目的としない頒布の場合、およびお客様が上記の(b)項に基づいてオブジェクトコードまたは実行可能な形式でプログラムを入手した場合にかぎり認められる)

著作物のソースコードとは、著作物の改変作業に適した形式を指すものとします。実行形式の著作物の場合、ソースコード一式とは、著作物に含まれる全モジュールの全ソースコードに加え、関連するインタフェース定義ファイル、および実行形式のコンパイルおよびインストールを制御するために使用するスクリプトを指すものとします。ただし、特別な例外として、実行形式が実行されるオペレーティングシステムの主要なコンポーネント(コンパイラやカーネルなど)とともに(ソースコード形式またはバイナリ形式のいずれかで)通常、頒布されるものは、コンポーネント自体が実行形式に付随するのではないかぎり、頒布するソースコードに含める必要はありません。

指定の場所から実行形式またはオブジェクトコードを複製するアクセス手段を提供することで頒布を行う場合、ソースコードも同等のアクセス手段によって同じ場所から複製できるようにすると、オブジェクトコードとともにソースコードも複製することを第三者に強いていなくても、ソースコードの頒布とみなされます。

- 4. このライセンスで明示的に許可されている以外の方法で、お客様が「プログラム」を複製、改変、サブライセンス、または頒布することはできません。ほかの方法で「プログラム」を複製、改変、サブライセンス、または頒布しようとする行為は無効であり、このような行為を行うと、このライセンスの下でお客様に与えられる権利が自動的に取り消されます。ただし、この場合、このライセンスの下でお客様から複製物または権利を与えられた第三者は、このライセンスに完全に従っている場合にかぎり、ライセンスを取り消されません。
- 5. お客様は同意の印として署名していないので、このライセンスに同意する必要はありません。ただし、「プログラム」またはその派生物を改変または頒布する許可を与えるものはこのライセンス以外にはありません。このライセンスに同意しなかった場合、これらの行為は法律で禁じられています。したがって、「プログラム」(または「『プログラム』を基にした著作物」)の改変または頒布を行うと、お客様

はこのライセンス、および「プログラム」(または「『プログラム』を基にした著作物」)の複製、頒布、または改変に関するすべての条項に同意したとみなされず。

6. お客様が「プログラム」(または「『プログラム』を基にした著作物」)を再頒布すると、その再頒布先は、これらの条項に従った「プログラム」の複製、頒布、または改変を元のライセンサーから許諾されるものとし、再頒布先に許諾される権利の行使について、お客様がさらに制約を加えることはできません。お客様には、第三者がこのライセンスに従うことを強制する責任はありません。
7. 裁判所の判決、特許侵害の申し立て、またはその他の理由(特許問題に限らない)の結果として、お客様に課せられた条件がこのライセンスの条件と矛盾する場合、このライセンスの条件が免除されるものではありません。このライセンスの下での責務と、その他の関連責務を同時に満たす方法で頒布できない場合は、お客様は「プログラム」をまったく頒布してはいけません。たとえば、お客様から直接または間接に複製物を受け取るすべての人が使用料なしで「プログラム」を再頒布することが特許ライセンスで許可されていない場合、特許ライセンスとこのライセンスの両方を同時に満たすには、「プログラム」の頒布を完全に断念する必要があります。

この項の一部が特定の状況下で無効または適用不可能になった場合は、この項の残りの部分が適用され、その他の状況ではこの項全体が適用されます。

この項の目的は、特許権やその他の所有権を侵害したり、その範囲の妥当性を争うようお客様に勧めることではありません。この項の唯一の目的は、パブリックライセンスによって実装されるフリーソフトウェアの頒布システムの完全性を守ることです。多くの人々が、このシステムの一貫した適用を信頼して、このシステムを通じて頒布されている幅広い範囲のソフトウェアに惜しみない貢献をしています。作成者または協力者がその他のシステムを通じてソフトウェアを頒布したいと決めることは作成者または協力者の自由意志であり、ライセンサーがその選択を強いることはできません。

この項は、このライセンスのほかの部分の一掃結になると考えられるケースを徹底的に明らかにすることを目的としています。

8. 特許、または著作権で保護されたインタフェースのいずれかによって、「プログラム」の頒布・使用が特定の国で制限されている場合、「プログラム」にこのライセンスを適用した著作権保有者は、その国を除外する明示的な頒布地域制限を加え、除外されない国の中または除外されない国々の間に限定して頒布を許諾できます。この場合、その制限はこのライセンスの本文内の記述と同等とみなされます。

9. Free Software Foundation は随時、このジェネラルパブリックライセンスの改訂版または新版を発行することがあります。改訂版または新版は、現行版とその精神において変わるところはありませんが、新しい問題や懸案事項を解決するために細部では異なる可能性があります。

各版は、版番号によって区別します。「プログラム」に、その「プログラム」に適用されるこのライセンスの版番号、および「それ以降の任意の版 (any later version)」の指定がある場合、指定の版、またはその後に Free Software Foundation から発行されている任意の版のいずれかの条項に従うことを選択できます。「プログラム」に、このライセンスの版番号の指定がない場合は、今までに Free Software Foundation から発行された任意の版を選択できます。

10. 「プログラム」の一部を、頒布条件が異なるほかのフリープログラムと統合する場合は、作者に書面で許可を求める必要があります。Free Software Foundation が著作権を保有するソフトウェアについては、Free Software Foundation に書面を提出してください。当財団は、このような場合に特別な例外を設けることがあります。その判断基準となるのは、当財団のフリーソフトウェアのすべての派生物がフリーな状態に保たれること、および一般的にソフトウェアの共有と再利用を促進するという2つの目標の実現に合致するかどうかです。

無保証について

11. 「プログラム」は無償でライセンスが与えられるので、適用法令の範囲内で、「プログラム」の保証は一切ありません。「プログラム」は、著作権保有者またはその他の第三者、あるいはその両方によって「現状のまま」提供され、商品性および特定目的への適合性の保証を含みそれに限定されない、明示または黙示を問わない、いかなる保証を行うものではありません。「プログラム」の品質および性能に関するリスクはすべてお客様が負うものとします。「プログラム」に欠陥があるとわかった場合、それに伴う保守、修理、または修正に要する費用はすべてお客様の負担とします。
12. 適用法令の定め、または書面による合意がある場合を除き、著作権保有者、またはこのライセンスによって「プログラム」の改変または再頒布、あるいはその両方を行うことを許諾された第三者は、損害の可能性について知らされていたとしても、「プログラム」の使用またはその不使用に起因する一般的損害、特別損害、偶発的損害、または間接損害(データの消失、データの不正確な処理、お客様または第三者が被った損失、ほかのプログラムとのインタフェースの不適合を含みそれに限定されない)に対する一切の責任を負いません。

SSL ライセンス

Copyright (c) 1998-1999 Ralf S. Engelschall. All rights reserved.

次の条件の下で、変更の有無にかかわらず、ソースコード形式およびバイナリ形式の再頒布および使用が許諾されます。

1. ソースコードを再頒布するときは、上記の著作権表示、この条件一覧、および次の免責事項を含めること
2. バイナリ形式を再頒布するときは、頒布時に含めるマニュアルまたはその他の資料、あるいはその両方に、上記の著作権表示、この条件一覧、および次の免責事項を掲載すること
3. このソフトウェアの機能または使用に言及する宣伝資料には、次の告知を掲載すること

「この製品には、mod_ssl プロジェクト
(<http://www.engelschall.com//sw/>) 用に Ralf S. Engelschall
<rse@engelschall.com> によって開発されたソフトウェアが含まれます。」

4. 書面による事前の許可なく、「mod_ssl」の名前を、このソフトウェアから派生した製品の推奨または宣伝に使用しないこと。書面による許可は
rse@engelschall.com にご請求ください。
5. Ralf S. Engelschall の書面による事前の許可なく、このソフトウェアから派生した製品の名前または名前の一部を「mod_ssl」としないこと
6. いかなる形式でも、再頒布のときには次の告知を含めること

「この製品には、mod_ssl プロジェクト
(<http://www.engelschall.com//sw/>) 用に Ralf S. Engelschall
<rse@engelschall.com> によって開発されたソフトウェアが含まれます。」

このソフトウェアは、Ralf S. Engelschall によって「現状のまま」提供され、商品性および特定目的への適合性の保証を含みそれに限定されない、明示または黙示を問わない、いかなる保証を行うものではありません。Ralf S. Engelschall またはその協力者は、損害の可能性について知らされていたとしても、契約、厳格責任、または不法行為（過失などを含む）のいかなる責任の理論においても、またどのように生じたかにかかわらず、このソフトウェアの使用に起因する直接損害、間接損害、偶発的損害、特

別損害、懲罰的損害または結果損害 (代替品または代替サービスの調達、使用、データ、または利益の損失、業務の中断を含みそれに限定されない) に対する一切の責任を負いません。

Intel BSD および特許ライセンス

Copyright (c) 2001-2002 Intel Corporation.

このソフトウェアプログラムは、次の条件の下でライセンスが与えられます。

Intel BSD および特許ライセンス

「受取人」がライセンスを要求し、Intel Corporation (以下「インテル」) は、インテルが提供する「panic!el」というソフトウェア (以下「ソフトウェア」) のライセンスを与える意欲があります。このライセンスでは、次の語句が使われています。「ライセンス対象の特許権」とは、インテルがライセンスを付与できる、「ソフトウェア」単独の、または「ソフトウェア」を次に示すオペレーティングシステムと組み合わせたときの使用または販売によって必然的に侵害される特許範囲を指すものとします。「受取人」とは、インテルがこの「ソフトウェア」を提供する相手を指すものとします。「ライセンシー」は、GNU ジェネラルパブリックライセンス第 2.0 版以降の下で任意のオペレーティングシステムのライセンスを受ける「受取人」および第三者を指すものとします。

Copyright (c) 1996-2002 Intel Corporation. All rights reserved.

このライセンスは、次の条件の下で「受取人」および「受取人」の「ライセンシー」に与えられます。次の条件の下で、変更の有無にかかわらず、ソースコード形式およびバイナリ形式での「ソフトウェア」の再頒布および使用が許諾されます。

1. 「ソフトウェア」のソースコードを再頒布するときは、上記の著作権表示、この条件一覧、および次の免責事項を含める必要があります。
2. 「ソフトウェア」のバイナリ形式を再頒布するときは、頒布時に含めるマニュアルまたはその他の資料、あるいはその両方に、上記の著作権表示、これらの条件一覧、および次の免責事項を掲載する必要があります。
3. 書面による事前の許可なく、インテルやその協力者の名前を、この「ソフトウェア」から派生した製品の推奨または宣伝に使用してはいけません。

インテルは、ソースコードおよびオブジェクトコードの形式で、「受取人」および「ライセンシー」に、「ライセンス対象の特許権」の下で、「ソフトウェア」を作成、使用、販売、販売請負、輸入、およびその他の方法で譲渡する、非独占的な、全世界における、使用料なしの特許ライセンスを与えるものとします。このライセンスには、GNU ジェネラルパブリックライセンス第 2.0 版以降の下で頒布された任意のバージョンのオペレーティングシステムに「ソフトウェア」が取り込まれたときに機能を追加しない、「ソフトウェア」のエラー修正またはその他の小さな変更を含むものとします。この特許ライセンスは、インテルが「ソフトウェア」を「受取人」に提供するときに、GNU ジェネラルパブリックライセンス第 2 版以降の下でその時点で使用可能なオペレーティングシステムのバージョン（ゴールド、ベータ、またはアルファの形式）に「ソフトウェア」を追加すると、この組み合わせが「ライセンス対象の特許権」の対象となる場合、「ソフトウェア」と、GNU ジェネラルパブリックライセンス第 2 版以降の下でライセンスが与えられる任意のオペレーティングシステムの組み合わせに適用されるものとします。この特許ライセンスは、「ソフトウェア」を含むその他の組み合わせには適用されないものとします。以下では、ハードウェアのライセンスは与えられません。

このソフトウェアは、著作権保有者とその協力者によって「現状のまま」提供され、商品性および特定目的への適合性の保証を含みそれに限定されない、明示または黙示を問わない、いかなる保証を行うものではありません。インテルまたはその協力者は、損害の可能性について知らされていたとしても、契約、厳格責任、または不法行為（過失などを含む）のいかなる責任の理論においても、またどのように生じたかにかかわらず、このソフトウェアの使用に起因する直接損害、間接損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害または結果損害（代替品または代替サービスの調達、使用、データ、または利益の損失、業務の中断を含みそれに限定されない）に対する一切の責任を負いません。

Apache ライセンス (Struts および Tomcat)

Apache ソフトウェアライセンス、第 1.1 版

Copyright (c) 2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved.

次の条件の下で、変更の有無にかかわらず、ソースコード形式およびバイナリ形式の再頒布および使用が許諾されます。

1. ソースコードを再頒布するときは、上記の著作権表示、この条件一覧、および次の免責事項を含めること
2. バイナリ形式を再頒布するときは、頒布時に含めるマニュアルまたはその他の資料、あるいはその両方に、上記の著作権表示、この条件一覧、および次の免責事項を掲載すること
3. 再頒布時に含める一般ユーザー向けマニュアルがある場合は、次の告知を掲載すること

「この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) によって開発されたソフトウェアが含まれます。」

この告知は、ソフトウェア内で第三者の告知が通常含まれる場所に含めることも認められます。

4. 書面による事前の許可なく、「Apache」または「Apache Software Foundation」の名前を、このソフトウェアから派生した製品の推奨または宣伝に使用しないこと。書面による許可は apache@apache.org にご請求ください。
5. Apache Software Foundation の書面による事前の許可なく、このソフトウェアから派生した製品の名前または名前の一部を「Apache」としないこと

このソフトウェアは、「現状のまま」提供され、商品性および特定目的への適合性の保証を含みそれに限定されない、明示または黙示を問わない、いかなる保証を行うものではありません。Apache Software Foundation またはその協力者は、損害の可能性について知らされていたとしても、契約、厳格責任、または不法行為（過失などを含む）のいかなる責任の理論においても、またどのように生じたかにかかわらず、このソフトウェアの使用に起因する直接損害、間接損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害または結果損害（代替品または代替サービスの調達、使用、データ、または利益の損失、業務の中断を含みそれに限定されない）に対する一切の責任を負いません。

このソフトウェアは、Apache Software Foundation への多くの個人のボランティアによる貢献から成り立っています。Apache Software Foundation については、<http://www.apache.org/> をご覧ください。

このソフトウェアの一部は、イリノイ大学 NCSA (National Center for Supercomputing Applications) で作成されたパブリックドメインソフトウェアに基づいています。

Java™ 2 Platform, Standard Edition (J2SE™) ライセンス

Java™ 2 Platform, Standard Edition (J2SE™) 仕様書 (以下「仕様書」)

バージョン: 1.4.1

ステータス: FCS

リリース: 2002 年 9 月 16 日

Copyright 2002. Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A All rights reserved.

告知 (限定ライセンス)

Sun Microsystems, Inc. (以下「サン」) は、適用されるサンの知的所有権の下で、内部評価の目的にかぎり、この「仕様書」を表示、ダウンロード、使用、および複製する、全額払込済みで、非独占的で、譲渡できない、全世界における限定ライセンス (サブライセンスの権利を含まない) を与えるものとします。これには、「仕様書」の実装で実行するアプリケーションが「仕様書」の一部を実装しないかぎり、このようなアプリケーションの開発を含みます。

サンはまた、「仕様書」に含まれる適用される著作権または特許権の下で、「仕様書」の範囲における以下の項目に該当する限り、「独立した実装」を作成および頒布する恒久的、非独占的で、全世界における、全額払込済みで、使用料なしの (サブライセンスの権利を含まない) 限定ライセンスを与えるものとします。(i) 必要なインタフェースおよび機能を含め「仕様書」の内容を完全に実装する。(ii) Licensor Name Space を変更、縮小、拡大したり、「仕様書」または実装された「仕様書」によって要求または認可されている場合を除き、公開または保護されたパッケージ、クラス、

Java インタフェース、フィールド、または方法を Licensor Name Space に含めたりしない。(iii)「仕様書」について(該当する TCK ユーザーガイドの要件を満たすことを含め) TCK に準拠する。上記のライセンスは、適用範囲外の行為を行わない場合にかぎり与えられます。以下では、その他のいかなる目的のライセンスも与えられません。

「独立した実装」、またはその実装から派生した製品の使用に関してお客様が与えるライセンスに前段落の制限事項 (i) ~ (iii) またはその他の特定の引き渡しの条件を含める必要はないものとします。ただし、前段落の制限事項 (i) ~ (iii) を満たす「仕様書」の実装(およびその実装から派生した製品)に関してを除き、(a) サンの適用される知的所有権の下で、ライセンシーにライセンスを与えるか、引き渡すこと、および (b) ライセンシーの実装の当該「仕様書」への準拠に関する主張を承認することは認められません。

この契約では、「独立した実装」とは、サンのソースコードまたはバイナリコードの資料から派生せず、サンからの適切かつ別個のライセンスがないかぎり、サンのソースコードまたはバイナリコードの資料を含まない「仕様書」の実装を指すものとします。「ライセンサーのネームスペース」は、名前が「java」、「javax」、または「com.sun」から始まる公開のクラスまたはインタフェースの宣言、Java Community Process を通してサンによって採用されたその後の命名規則でのその相当物、または認められたその後継または代替を指すものとします。

上記で与えられたライセンスの資料の提供、またはライセンスの適用範囲外の行為を行った場合、この契約はサンからの通知なく直ちに終結されるものとします。

商標

以下で、サンまたはサンのライセンサーの商標、サービスマーク、または商用名に対する権利、資格、または利権が与えられるものではありません。Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、J2SE、および Java のコーヒーマグのロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

保証の放棄

この「仕様書」は「現状のまま」提供されるものです。サンは、商品性、特定目的への適合性、非侵害性、この「仕様書」の内容がすべての目的に適していること、またはこの内容の実践または実装によって第三者の特許権、著作権、企業秘密、またはそ

の他の権利を侵害しないことの保証を含みそれに限定されない、明示または黙示を問わない、いかなる表明または保証を行うものではありません。本書は、「仕様書」の一部を製品に公開または実装する約束を表明するものではありません。

この「仕様書」には、技術的な、または表記上の誤りがある可能性があります。変更が行われた場合に定期的にその情報を追加し、「仕様書」の改版時に反映することがあります。サンは、「仕様書」で言及している製品またはプログラム、あるいはその両方を予告なく改善または変更することがあります。「仕様書」のそのような変更内容の使用は、「仕様書」の適用される版のその時点での最新のライセンスに準拠するものとします。

有限責任

法律で禁じられていないかぎり、サンまたはそのライセンサーは、損害の可能性について知らされていたとしても、いかなる責任の理論においても、またどのように生じたかにかかわらず、この「仕様書」の供給、実践、改変、または使用に起因または関係する収益、利益、またはデータの損失、特別損害、間接損害、結果損害、偶発的損害、または懲罰的損害に対して一切の責任を負いません。

お客様は、以下の項目に起因するあらゆる申し立てについて、サンおよびそのライセンサーを免責し、これに対して損失を与えず、擁護するものとします。(i) お客様による「仕様書」の使用、(ii) お客様による Java アプリケーション、アプレットの使用または頒布、およびクリーンルームの実装、(iii) お客様に提供された「仕様書」の以降の版またはリリースが、このライセンスの下で提供された「仕様書」と矛盾する旨の何らかの申し立て。

制限付き権利

U.S. Government: If this Specification is being acquired by or on behalf of the U.S. Government or by a U.S. Government prime contractor or subcontractor (at any tier), then the Government's rights in the Software and accompanying documentation shall be only as set forth in this license; this is in accordance with 48 C.F.R. 227.7201 through 227.7202-4 (for Department of Defense (DoD) acquisitions) and with 48 C.F.R. 2.101 and 12.212 (for non-DoD acquisitions).

報告

お客様は、「仕様書」の使用に関する不明瞭な点、矛盾点、または誤り(以下「フィードバック」)を報告できます。お客様は、サンに「フィードバック」を報告することで、(i) その「フィードバック」に財産性および秘密性がないことに同意し、かつ (ii) 「仕様書」および将来の版、実装、およびそのテストスイートに関連する任意の目的でその「フィードバック」を組み入れ、開示し、使用するための恒久的、非独占的で、全世界における、全額払込済みで取り消し不能のライセンスを、複数のレベルのサブライセンシーを通じてサブライセンスする権利とともにサンに与えるものとしてします。

(LFI#116987/Form ID#011801)